

築地市場跡地に係る埋蔵文化財試掘調査委託（6 築－1）

業 務 報 告 書

令和 6 年 10 月

東京都第一市街地整備事務所

株 式 会 社 ノ ガ ミ

調 査 概 要

件 名	築地市場跡地に係る埋蔵文化財試掘調査委託（6 築－1）
調査地点	東京都中央区築地五丁目地内
調査面積	試掘坑① 400.57 m ² 試掘坑② 218.11 m ² 試掘坑③ 297.26 m ² （合計：915.94 m ² ）
調査期間	事前準備 令和 6 年 4 月 1 日 ～ 4 月 8 日の内、 3 日間 現地調査 令和 6 年 4 月 8 日 ～ 10 月 25 日の内、 134 日間（埋め戻し・防塵処理作業を含む。） 整理作業 令和 6 年 8 月 1 日 ～ 10 月 31 日の内、 62 日間
調査機関	株式会社ノガミ 関東支店 現場代理人 :  土木技師 :  主任調査技師 :  庶務 : 
立 会 者	中央区教育委員会総括文化財調査指導員 
検出遺構	池 1 か所、石積 2 基、集石遺構 1 か所、溝 1 条、建物基礎（コンクリート製） 1 基、建物址（煉瓦組） 4 基、下水枡（煉瓦組） 3 基
出土遺物	計 4,496 点（磁器 1,416 点、陶器 855 点、炆器 32 点、土器 21 点、瓦 33 点、煉瓦片 1,824 点、木製品 60 点、土製品 2 点、金属製品 2 点、ガラス製品 132 点、ガイシ 119 点）
調査方法	1. 試掘坑は、中央区教育委員会（以下、区教委という）の事前承認のもと、都市整備局立ち会いの上で設定した。 2. 試掘坑掘削作業は、区教委の指示のもと、幅 1 m、深さ 1 m の段状掘削を基本に、既存構造物等により適宜変更し重機を用い行った。遺構検出は人力で精査し、遺構調査後、写真及び測量記録を行った。 3. 平面図及び断面図の図化はトータルステーションを使用した。座標及び標高（Tokyo Peil）は市場橋交差点北西の道路上の補助点（3A482）を使用した。また、図中に示した方位は真北を示す。 4. 出土遺物は表土、盛土などの層位種別ごとに取り上げた。 5. 写真記録は 35 mm 一眼レフカメラ（リバーサルフィルム・モノクロフィルム）、デジタル・一眼レフカメラを使用した。

調査日誌抄録

試掘発掘調査（試掘坑①～③）

4月4日～基準点測量、試掘坑位置設定
4月10日～現場基地設営（仮設事務所設置、発電機・調査用具等搬入）
4月24日～コンクリートガラ、路盤材撤去作業（試掘坑①～③）
4月17日～重機掘削及び遺構検出開始（試掘坑③→①→②の順）
4月17日 ドローンによる調査坑撮影
4月26日～試掘坑①掘削1工程（路盤材等除去）
5月10日～試掘坑①掘削2工程
6月14日～試掘坑①掘削3工程
9月6日～試掘坑①掘削4工程
5月7日～試掘坑②掘削1工程（路盤材等除去）
6月4日～試掘坑②掘削2工程
7月11日～試掘坑②掘削3工程
8月8日～試掘坑②掘削4工程
4月17日～試掘坑③掘削1工程（路盤材等除去）
4月23日～試掘坑③掘削2工程
5月20日～試掘坑③掘削3工程
9月13日～試掘坑③掘削4工程
9月26日～10月21日 重機による埋め戻し作業、調査坑清掃作業
10月22日～10月31日 後片付け・場内整備作業
10月25日 防塵処理作業
10月31日 現場撤収完了

整理調査

8月1日～遺物洗浄作業開始
8月1日～図面修正作業開始
10月1日～遺物写真撮影作業
10月8日～図版作成作業開始
10月8日～原稿執筆作業開始
10月25日～遺物集計・梱包作業
10月25日～報告書レイアウト作業開始
10月31日 報告書完成

現場視察・指導等

東京都教育庁

・8月23日、27日、9月4日、24日、25日

中央区教育委員会

・8月27日、9月11日、25日、10月8日

地理的・歴史的環境

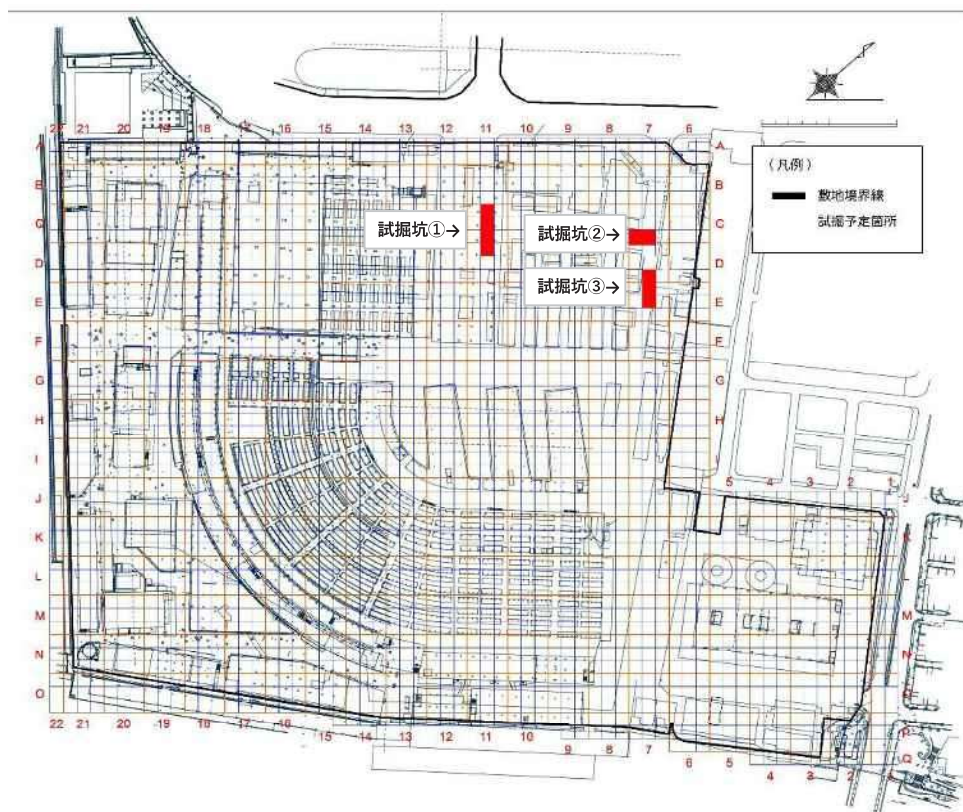
調査対象地である築地は、江戸幕府開設時にはまだ陸地化しておらず、隅田川河口に広がる湿地であったが、少なくとも明暦2年（1656）から翌年にかけておきた明暦の大火頃までには埋め立てられた。

その後、町人地から御米蔵を経て、享保年中（1716～1736）には森川出羽守、有馬内膳、辻新之巫、稲葉若狭守、などの拝領屋敷地となっており、文化5年（1808）になると拝領地が大きく集約され、佐倉藩主堀田相模守の屋敷地となり、文政13年（1830）には紀州藩邸となった。しかし、安政2年（1855）には幕府御用地となっている。

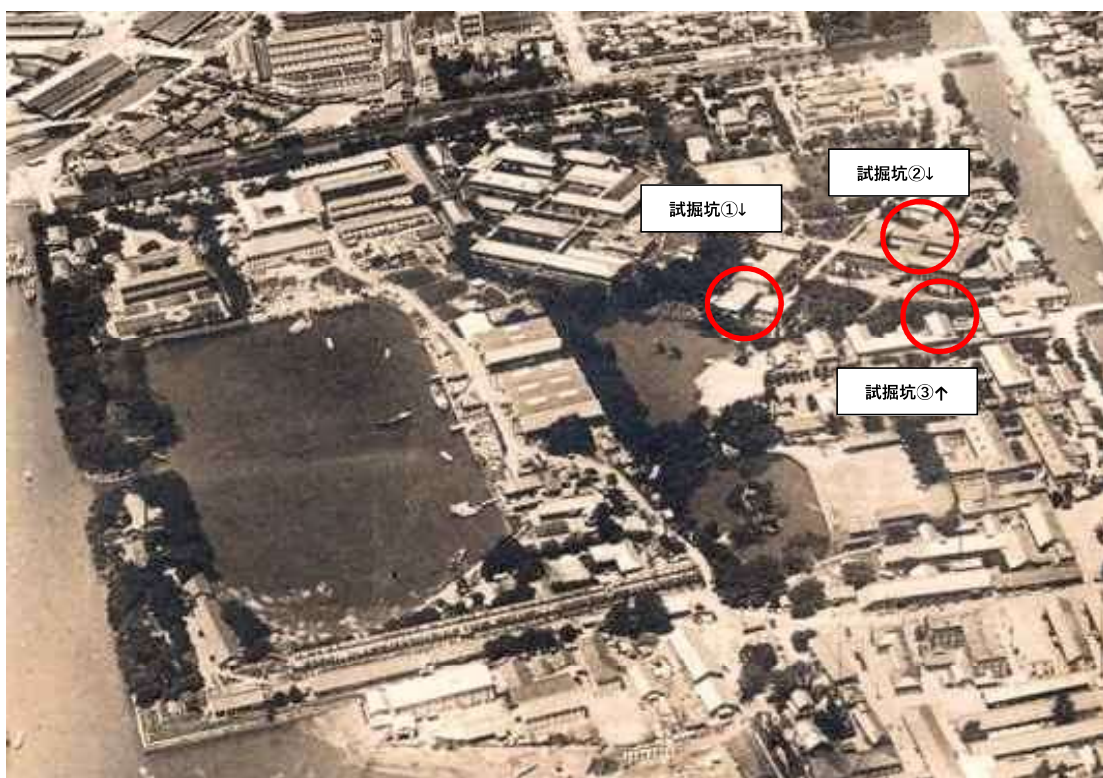
試掘坑周辺は、万治3年（1660）から寛文2年にかけて、稲葉家がこの地を拝領後に埋め立てを行ったとされる。「風山月楼記」（『鷲峰先生林学士文集』巻第6所収）には埋め立ての完了は寛文3年（1663）とあり、埋め立て後は稲葉家中屋敷となり「江風山月楼」という庭園が整備されたという。その後、延享3年（1746）に稲葉家屋敷の東半分以上（約1万9千坪）が徳川御三卿（ごさんきょう）・一橋家所有の下屋敷となったが、寛政4年（1792）、老中引退間際に松平定信が譲り受けて隠居所とし、「浴恩園」を造園した。浴恩園内には「春風の池」と「秋風の池」という2つの池があり、浜離宮と同じく海水を引き入れた汐入りの池で、干満による眺めの変化を楽しんだといわれている。しかし、文政12年（1829）3月の大火で被災してしまった。

明治維新後に海軍省用地となり、浴恩園のあった松平家の下屋敷は、明治16年（1883）には海軍兵学校の生徒館、明治41年（1908）には海軍軍医学校等が設置された。しかし、浴恩園の2つの池は維新以降も残ったものの、大正12年（1923）の関東大震災で海軍省の諸施設は大きな被害を受け、この2つの池も埋め立てられることとなった。

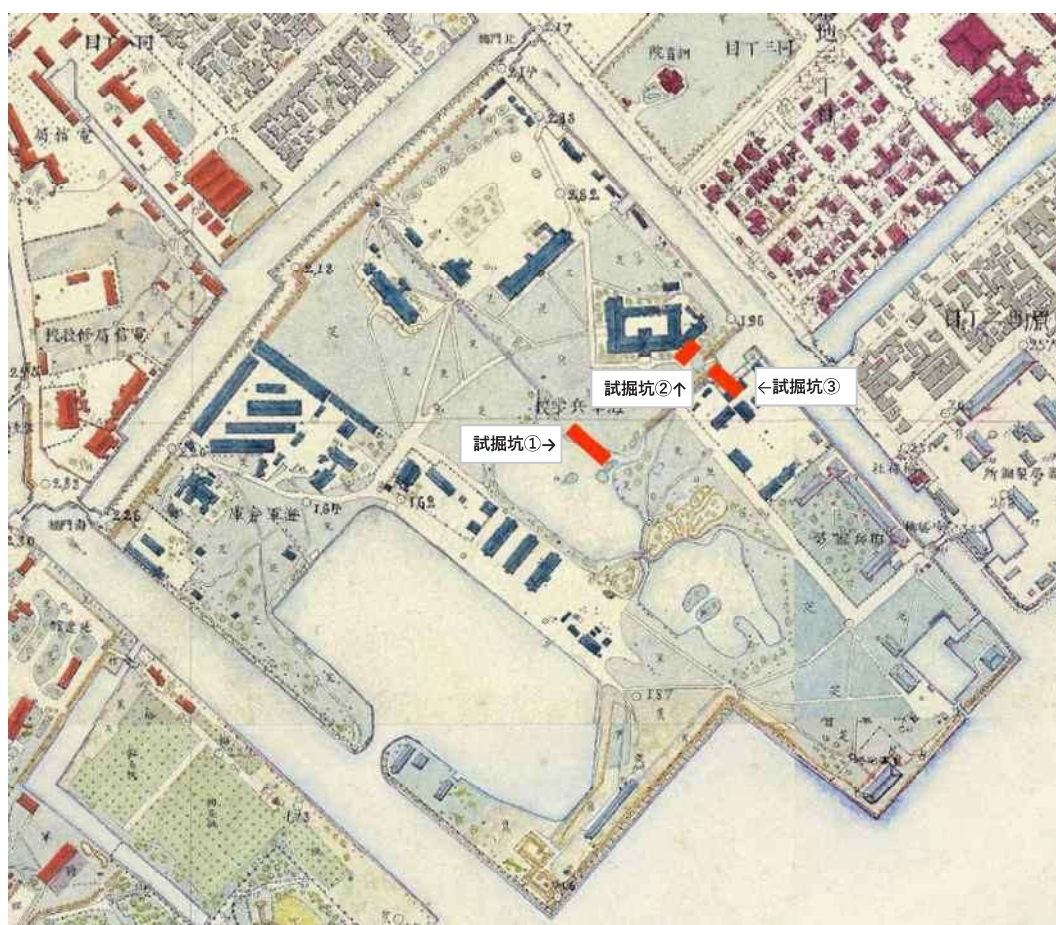
大正12年（1923）には、日本橋にあった魚河岸と京橋にあった大根河岸が海軍省から築地の用地を一部借り受け、一時的に公設市場が開設され営業を続けた。その後、昭和10年（1935）には中央卸売市場となり、第2次世界大戦後はアメリカ合衆国に接収されたが、市場は平成30年（2018）に豊洲に移転するまで続いた。



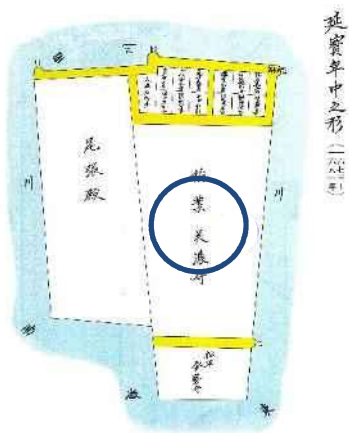
1 図 試掘坑①～③位置図（1）



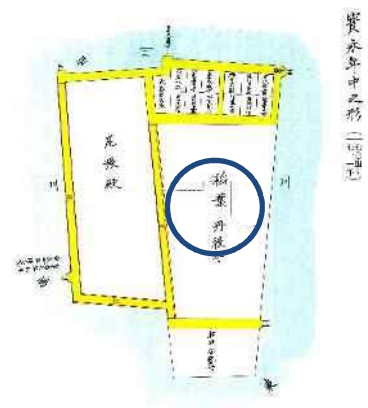
2 図 試掘坑①～③位置図（2）（『水路部沿革史』震災以前頃の海軍省空中写真(国土地理院)に加筆した合成図）



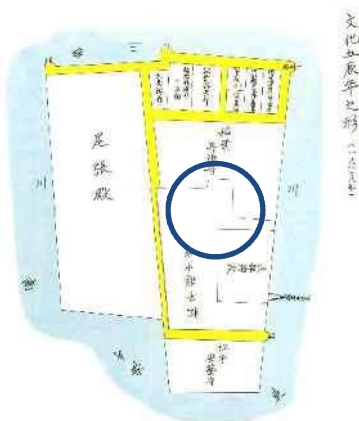
3 図 試掘坑①～③位置図（3）（『水路部沿革史』明治10年（1877）の海軍省敷地図（国立国会図書館）に加筆した合成図）



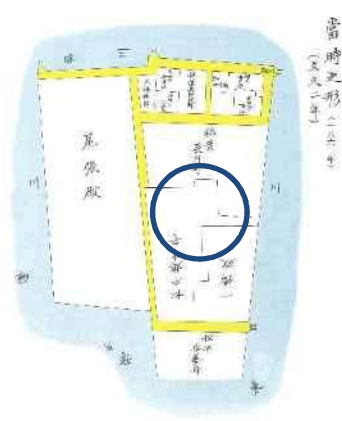
延寶年中（1673～1681）（左）



寶永年中（1704～1711）（右）



文化五年（1808）（左）



文久二年（1862）（右）

4 図 試掘坑①～③の近世の変遷図『御府内沿革図書』（中央区教育委員会）に青丸を加筆した合成図



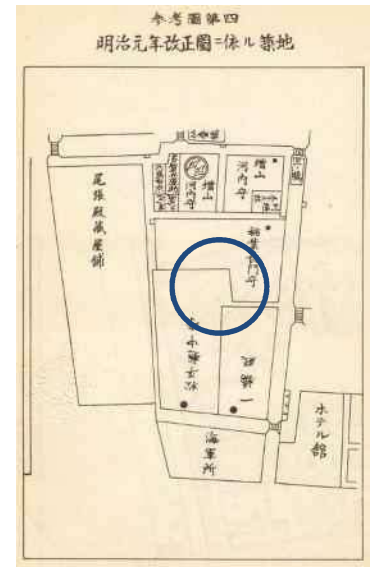
5 図 『江戸浴恩園全図』明治17年（1884）（国立国会図書館）に加筆した合成図



嘉永年間（1848～1854年）



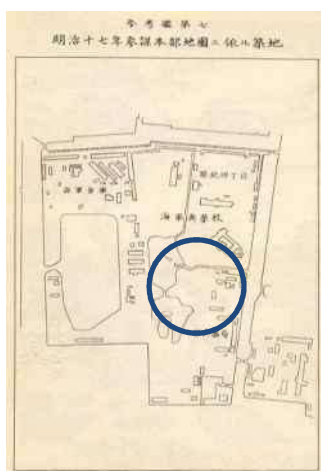
文久年間（1861～1864年）



明治元年（1868年）



明治10年（1877年）



明治17年（1884年）



明治45年（1912年）



大正14年（1925年）

6 図 試掘坑①～③の近世から近代の変遷図『水路部参考図』（国立国会図書館蔵）に青丸を加筆した合成図

調 査 成 果

試掘坑①～③は、段掘り掘削による方法で試掘調査を行った。1 段目の試掘調査は最大1.0mの深度まで掘削し、いずれの調査坑からもコンクリートガラや埋設管が混入した土層を確認した。これらのガラは旧築地市場の建物やインフラ関係の埋設管等である。そのため、土層の大半が旧築地市場関連の既存埋設物によって壊されており、試掘坑③では昭和時代の整地層と近代の整地層の境に不明瞭な箇所も目立った。

段掘り掘削 2 段目の試掘調査は、最大深度約 1.3 ～ 2.0 mまで掘削し、上記の盛土層からコンクリート製の建物基礎が確認された。この建物基礎周辺にはレンガ片やガラス瓶の破片、コンクリートガラ等が多量に出土したが、これらは関東大震災で崩壊した近代海軍省時代の施設の廃材とみられる。これらの建物基礎及びこれに関連するとみられる遺構は、試掘坑①では「石積 1」、試掘坑②では「下水枡（煉瓦組）1 ～ 3」、「建物基礎（コンクリート製）1」、試掘坑③では「建物址（煉瓦組）1 ～ 4」である。段掘り 3 段目の試掘調査では、最大深度約 4.0 mまで掘削し、黒褐色土やオリーブ黒色土といった近世に比定される土層面が確認された。当該層から確認された近世の遺構は、試掘坑①では「石積 2」・「集石遺構 1」や「池 1」が、試掘坑②では「溝 1」が該当する。

以下、試掘坑①～③の調査結果を順に掲載し、最後に墨書土器や釘書土器について記述する。

1. 試掘坑について

試掘坑①

調査面積 400.57 m²（1 工程：400.57 m²、2 工程：280.46 m²、3 工程：227.27 m²、4 工程：227.27 m²）

検出遺構 計 2 基、2 か所（池 1 か所、集石遺構 1 か所、石積 2 基）

出土遺物 点数 1,649 点、重量 207.703 kg（磁器 453 点、陶器 159 点、炆器 6 点、土器 1 点、瓦 19 点、土製品 2 点、金属製品 2 点、木製品 4 点、煉瓦 802 点、ガラス製品 123 点、ガイシ 78 点）

調査所見 段掘り掘削 2 段目の調査では、C11-4グリッド、TP=約 1.8 m地点までを掘削し、近代の建物（煉瓦組）の基礎である石積（石積 1）が確認された。また、段掘り掘削 3 段目の調査ではTP= 約 -0.5 m地点までを掘削し、調査坑中央部から南部にかけて池が確認された。この池は、『江戸浴恩園全図』明治 17 年（1884）（国立国会図書館蔵）や『水路部参考図』（国立国会図書館蔵）等の資料から、「浴恩園」内の「春風の池」の護岸の一部と思われる。この「浴恩園」は、陸奥国白河藩主である老中松平定信が寛政 4 年（1792）に一橋家から譲り受けた約 2 万坪の屋敷地を整備し、造園したことで知られている。この「春風の池」は、近代以降も海軍省の地図（海軍省敷地『水路部沿革史』明治 10 年（1877）（国立国会図書館蔵））に表記されており、東京市中央卸売市場の開設工事の一環で昭和 6 年（1931）に廃絶されるまで存立していた。また、この池の北東、C11-6グリッドのTP=約 0.5 m地点で、池（池 1）の護岸と推測される石積（石積 2）が確認された。こちらについても、「春風の池」の護岸の一部である可能性があり、池は拡張ないし縮小されたものと思われる。

当調査坑から確認された遺構と出土遺物に関しては、以下で順に述べていきたい。

（1）「池 1」（C11-6・D11-4グリッド）

今回の調査では、調査坑中央部から南部にかけてC11-6・D11-4グリッド、TP= 0.50 m地点で黒色土の埋土層（基本土層・第 5 層）が確認された。この土層は砂粒主体で、本来海底であったTP=約 -0.50 m地点の自然堆積層まで一括で埋め戻されていた。また、当範囲は前述した海軍省の地図（海軍省敷地『水路部沿革史』明治 10 年（1877）（国立国会図書館蔵））等の当該地の絵地図や測量図からみて、位置的に「浴恩園」内の「春風の池」にあたるため、池と推定した。調査坑内で確認できた範囲は、長軸約 17 m、幅約 10 mである。

なお、「春風の池」は関東大震災後の大正 12 年（1923）、中央卸売市場の建設計画が持ち上がった際に埋め立て工事の計画が立ち上がり、昭和 6 年（1931）の築地市場開場の際に、埋め立てられたとされる。また、調査坑北端には、後述する石積 2 が位置しており、当池の護岸と推測される。池底には半径約 3 m にわたって枝木が確認されたが、埋め戻しの段階で廃棄されたものと思われる。これらの枝木の断面は、一部鋭利な刃物で切断された状態のものもみられたことから、伐採されたものであったと考えられる。

「浴恩園」は定信が死去する 2 ヶ月前にあたる文政 12 年（1829）、文政の大火で被災したが、今回の調査では被熱痕のある礫や瓦等は出土していない。本遺構から出土した遺物は 21 点に留まるが、すべて池底直上あるいは池底近くから出土したものである。これらは、18 世紀中葉～18 世紀後葉に比定される磁器碗や 18 世紀後葉～幕末に比定される磁器染付碗のほか、淡路珉兵焼の中皿やお歯黒壺、西洋皿、火入れ、クリーム瓶、明治時代の印判等、器種は様々であり、近世後半から近代初頭頃の遺物が混在して出土した。

（２）「集石遺構 1」（C11-4・C11-5 グリッド）

本遺構は C11-4 と C11-5 の両グリッドにまたがり、TP=約 0.2～0.3 m 地点、南北約 3.3 m の範囲で確認された。本遺構が確認された TP=約 0.0 m 地点は、近世の生活面であったとみられ、基本土層（第 8 層）の下面に該当する。また、遺構範囲内からはのべ約 170 点の礫が確認されたが、その中で約 80 % の 140 点余りが切石や破砕石であった。石材は凝灰岩や玄武岩など様々で、大きさも大小様々であった。調査開始時は、位置的に近世の「浴恩園」の池に繋がる敷石の可能性を考慮し調査を進めたが、これらの切石は、TP=約 0.0～0.3 m の間で投棄されたかのように不規則に位置していたことや、遺構中央部に礫がない空間があること、本遺構が「浴恩園」に関する近世の絵図や、近代の海軍省に関する測量図等にも調べた範囲では記載されていないこと等から、本遺構の性格を捉えることはできなかった。出土遺物は C トレンチ内から出土した 2 点で、18 世紀～19 世紀前半頃に比定されるものであった。

（３）「石積 1」（C11-4 グリッド）

本遺構は、TP=約 2.1 m、東西約 6.8 m の範囲で確認された。また、上部には建物基礎と推測される煉瓦の一部が確認されていたため、近代の建物址（煉瓦組）の基礎であると判断した。

なお、本遺構は基本土層（第 2 層）を掘り込んで自然石や切石を配置し、その上にコンクリート板を設置しレンガを積み重ねて建物の基礎部を形成している。また、「浴恩園」内「春風の池」の護岸施設と推測される石積 2 とは比高約 2 m の差があるが、並行して位置しており、「春風の池」が廃絶される昭和 6 年（1931）より以前に構築されていた可能性がある。以上から、本遺構は海軍省に付属する施設であった可能性が高い。

また、本遺構の北側のトレンチからは磁器の端反碗が 1 点のみ出土しているが、ほかに本遺構に関連する遺物は出土しなかった。しかし、近代に比定できる当該層は、関東大震災で崩壊した建物址（煉瓦組）のガラなどと 19 世紀前～中葉の近世後期の陶磁器片が同一層から出土した。器種別にみると、瀬戸・美濃系の磁器碗や瓶、肥前系の磁器染付碗や鉢が多数を占めるが、ほかに鍋島焼の 5 寸皿、神酒徳利や磁器の転用おはじき、笠間焼の中甕、型紙摺りの碗等や植木鉢、磁器のクリーム瓶、東海系の鬼瓦、七輪、宍戸焼の湯たんぽなどである。これらの遺物が出土した層は、昭和 6 年（1931）に行われた築地市場建設に伴う地盤整備工事による盛土と推測される。そのほかの遺物としては、ガラス製品やガイシが目立ち、ガラス製品は、阪川牛乳商店（創業：明治 3 年 1870）・耕牧舎（創業：明治 12 年 1879

カ)の牛乳瓶や器械栓瓶のほか、薬瓶や目薬、森永コーラス(創業:昭和2年1927)、アンプル等である。また、これらの中には、一部溶解した状態で発見された遺物が含まれており、関東大震災で火熱を受けたものと考えられる。

(4)「石積2」(C11-6グリッド)

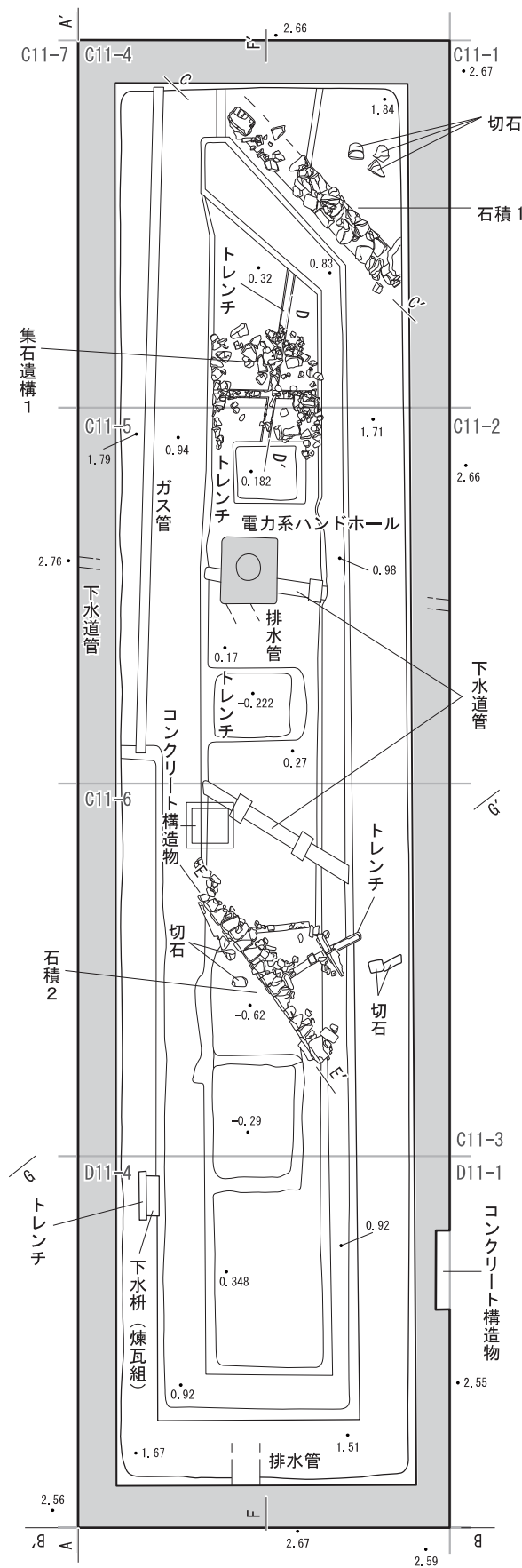
本遺構はC11-6グリッドの中央部に位置し、東西方向に延びて検出された。本遺構が確認された標高は、基本土層(第6層)の直下で、TP=約0.50 mである。石垣石は2段に積まれた状態で確認されていたが、本来何段積まれていたのかは不明である。石垣石のツラの規模は25~48 cm四方で、すべて安山岩であった。また、東端の石垣石は常滑製の下水管に一部壊されており、この下水管の下部には28×70 cmと28×60 cmの切石が重ねて設置されていた。

なお、石積の最下段、TP=約-0.40 mには幅約12 cmの胴木が長さ約4.0 mに渡って敷かれていた。裏込めの土丹はわずかに確認されており、大小様々な切石も裏込め内から確認された。また、令和3年に行われた東京都埋蔵文化財センターの試掘調査の結果では、本遺構から東方向約25 mに位置する⑩区に1号遺構である石積が確認されている。この⑩区の遺構が浴恩園の「春風の池」へ続く溝の護岸であると想定すると、本遺構は「春風の池」の北側に位置する護岸址と推測される。

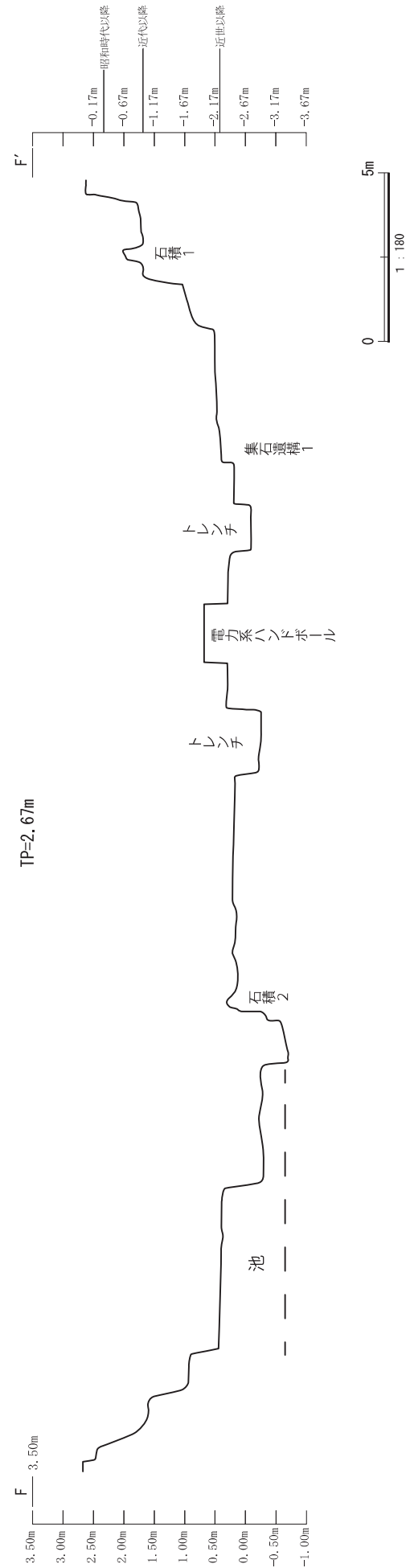
なお、『江戸浴恩園全圖』明治17年(1884)に描かれた「春風の池」では、「桜の淵・花の下道・葉山の関・八声の橋」の辺りで石積が描かれている。

また、出土遺物は石積2の裏込めのトレンチ部分から4点が出土しているが、すべて18世紀前葉~幕末に比定されるものであることから、本遺構は江戸時代に敷設されたものと考えられる。

TP=2.67m

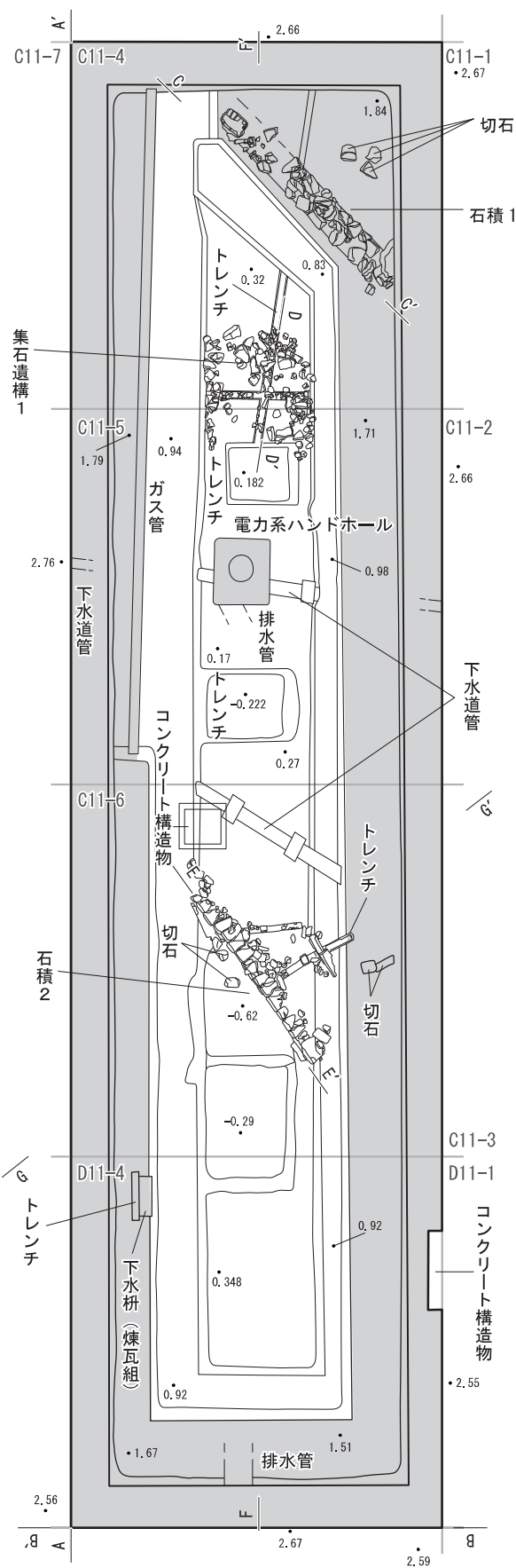


〈深度〉

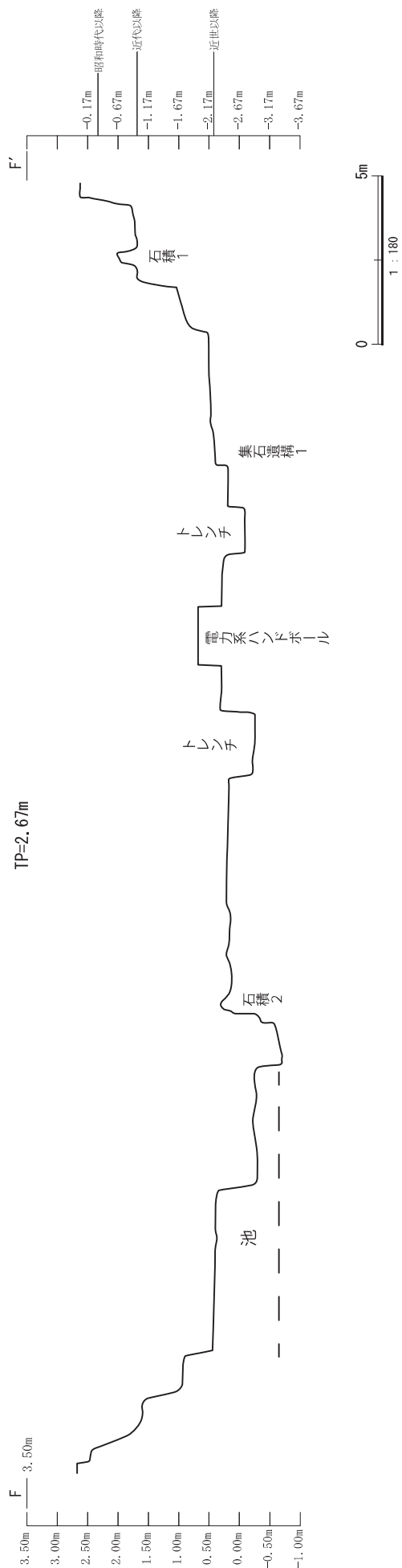


7 図 試掘坑①全体図 (1) 上層

TP=1.70m

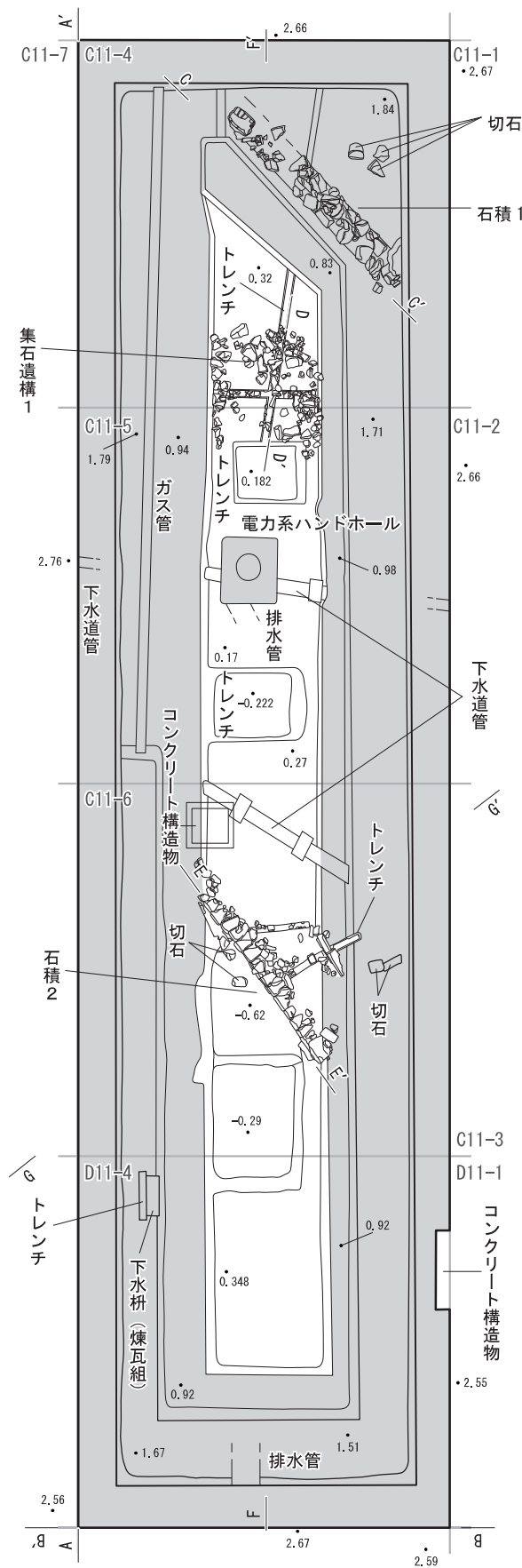


〈深度〉

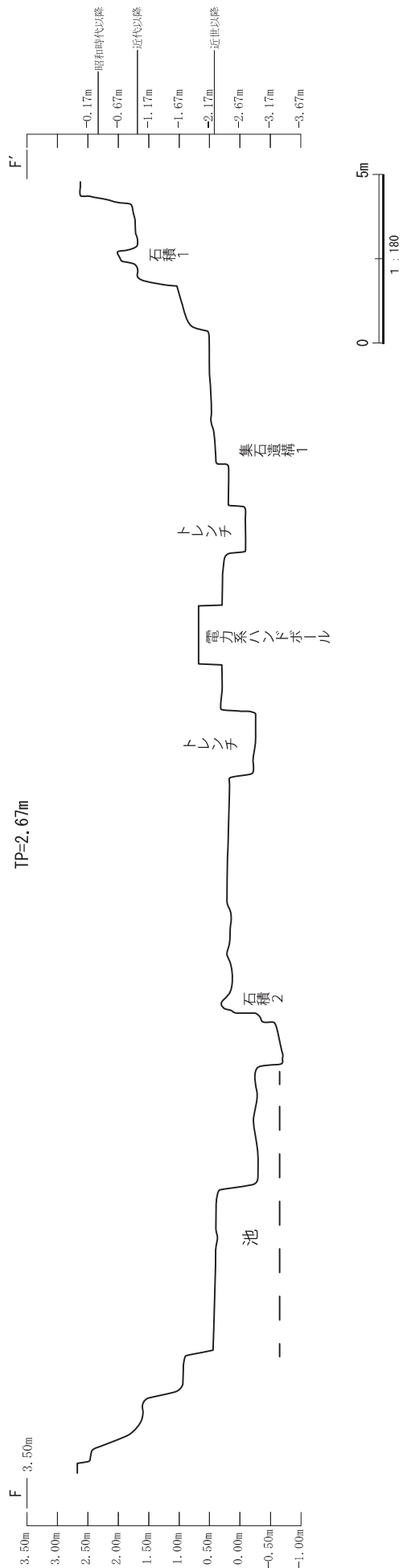


8 図 試掘坑①全体図 (2) 中層

TP=0.40m

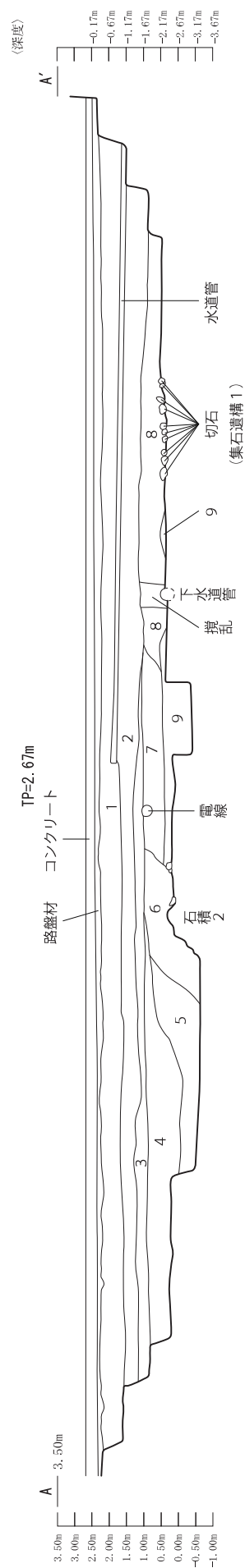


〈深度〉



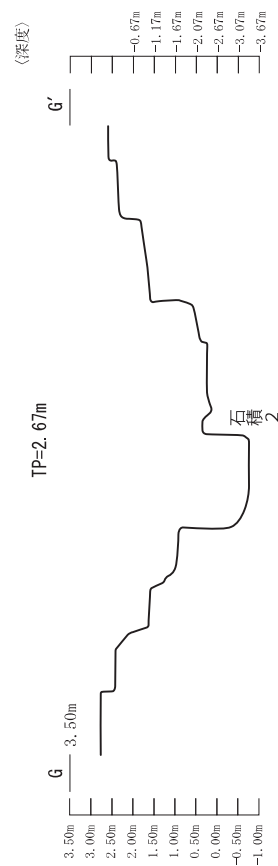
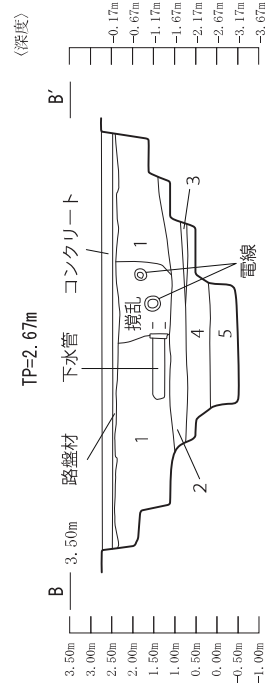
9 図 試掘坑①全体図 (3) 下層

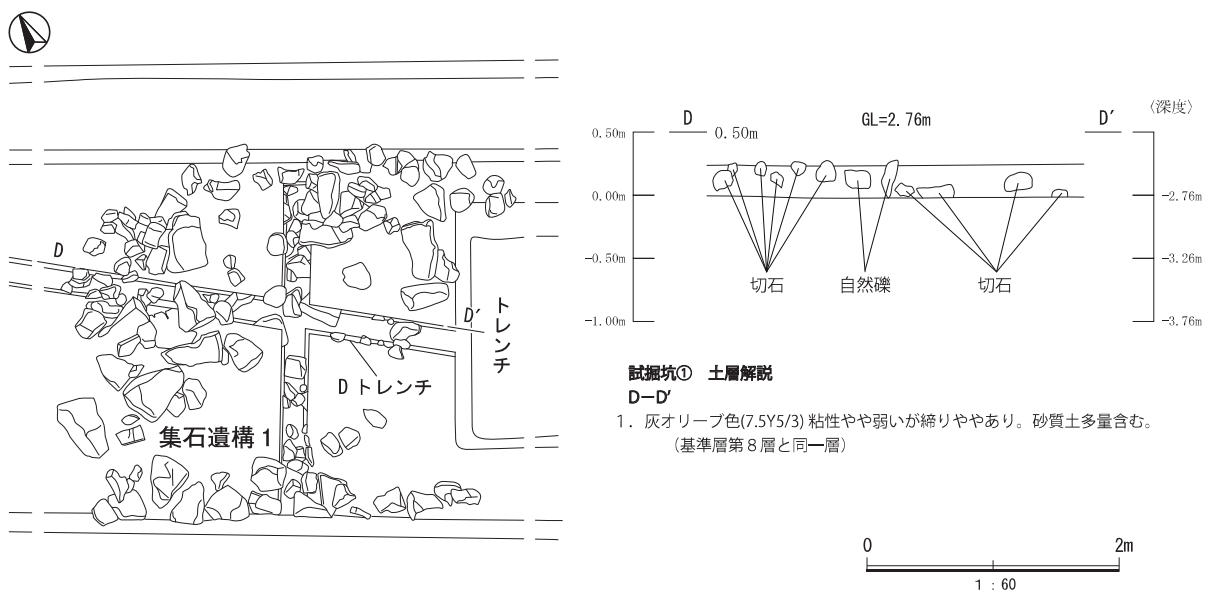
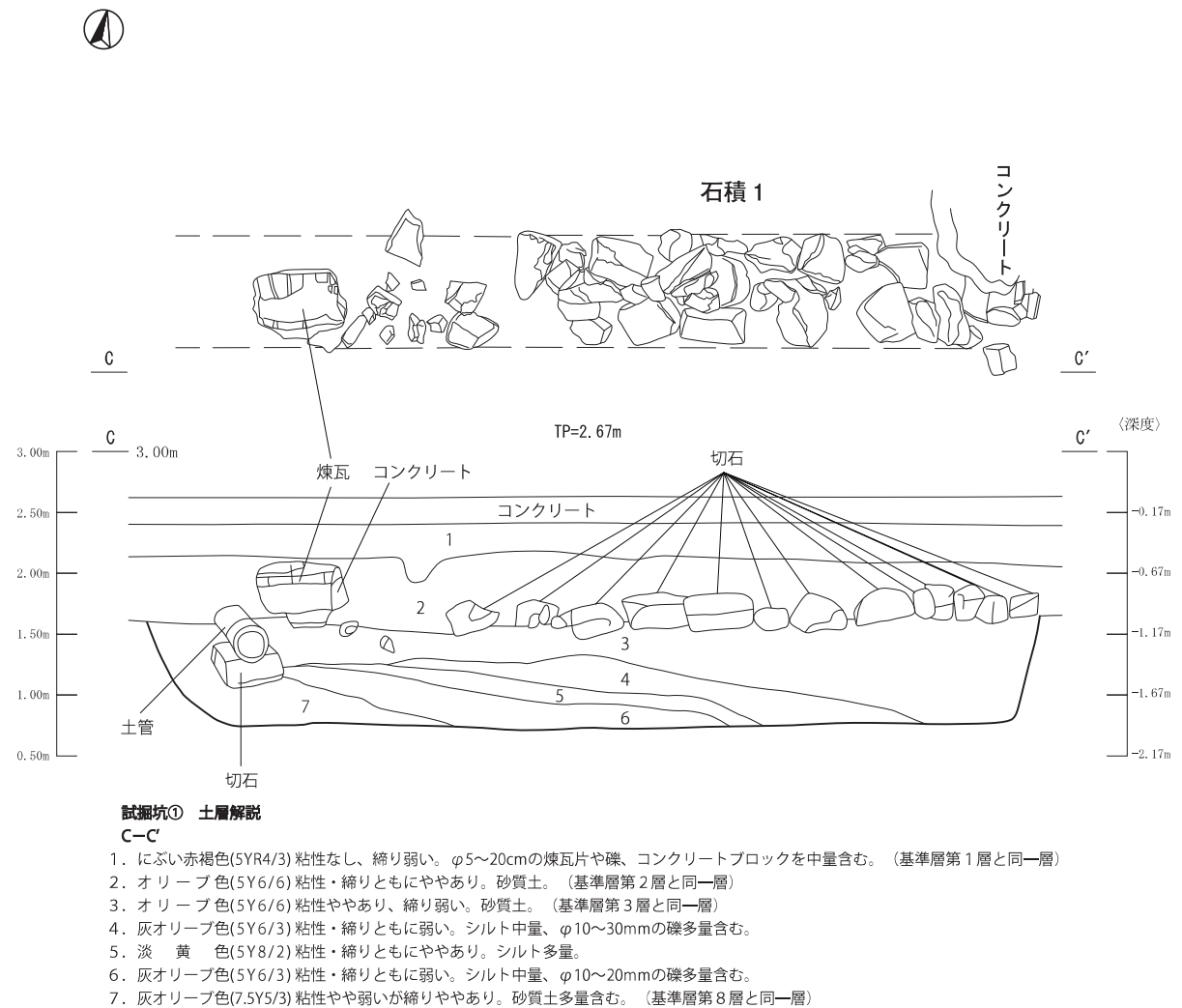
10 図 試掘坑①土層図 (1)



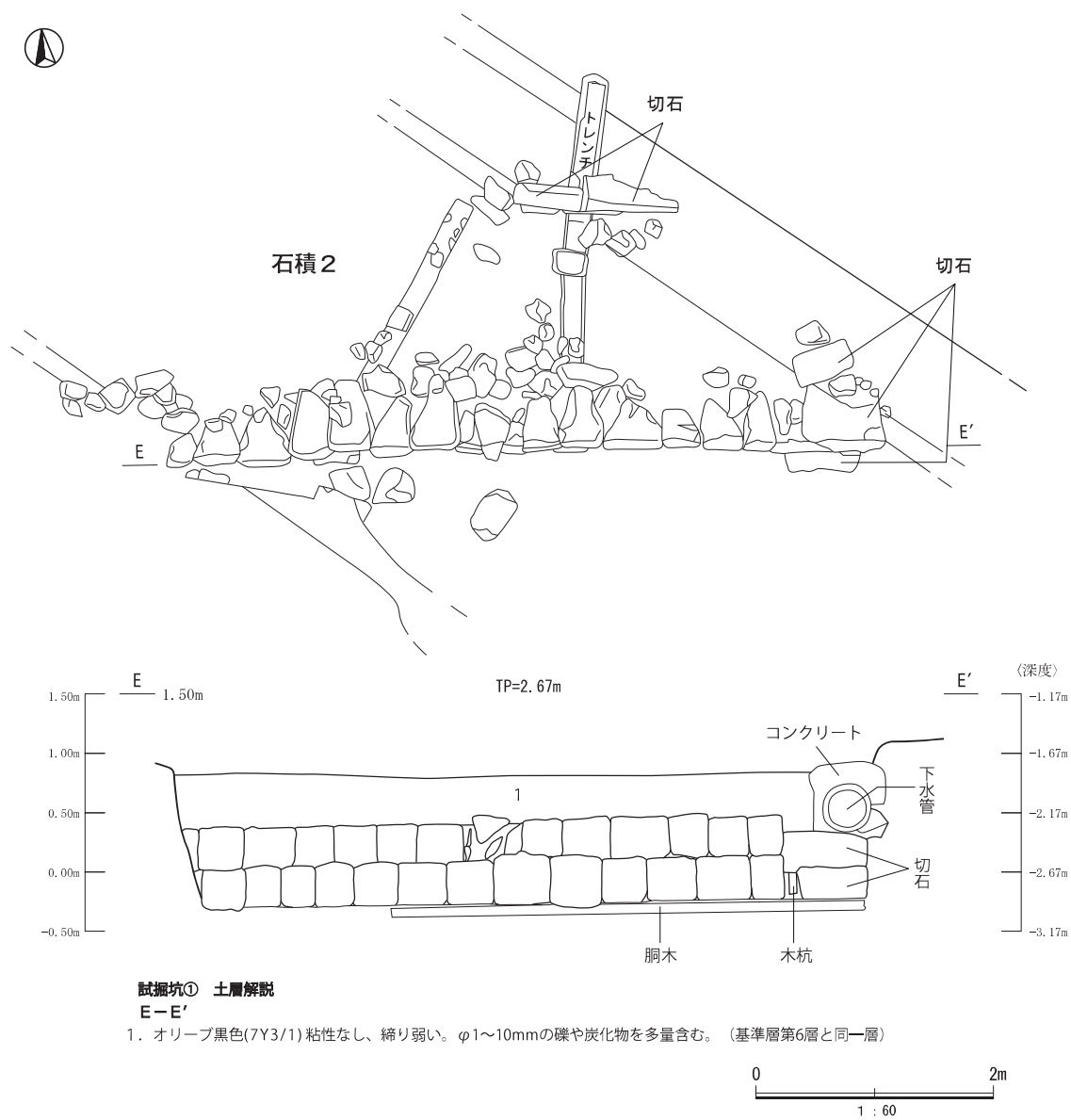
試掘坑① 土層解説

1. にぶい赤褐色(5YR4/3) 粘性なし、粘り強い。φ5~20cmの煉瓦片や礫、コンクリートブロックを多量含む。
2. オリーブ色(5Y6/6) 粘性・粘りともにややあり。砂質土。
3. オリーブ色(5Y6/6) 粘性・粘りともにややあり。砂質土。
4. にぶい赤褐色(5YR4/3) 粘性なし、粘り強い。φ5~20cmの煉瓦片や礫を多量含む。(池跡埋土)
5. オリーブ黒色(5Y3/2) 粘性なし、粘り強い。φ1~5mmの礫・炭化物粒を多量含む。(池跡埋土)
6. オリーブ黒色(7Y3/1) 粘性なし、粘り強い。φ1~10mmの礫や炭化物を多量含む。(池跡埋土)
7. 黒褐色(2.5Y3/1) 粘性・粘りともに強い。砂質土多量含む。φ1~40mmの礫や煉瓦片を中量含む。
8. 灰オリーブ色(7.5Y5/3) 粘性やや強いが粘りややあり。砂質土多量含む。
9. オリーブ黄色(5Y6/3) 粘性やや強いが粘りややあり。砂質土多量含む。φ100~250mmの礫を中量含む。





11 図 試掘坑①土層図 (2)



12 図 試掘坑①土層図 (3)

試掘坑②

調査面積 218.11 m²（1工程：218.11 m²、2工程：141.27 m²、3工程：6.31 m²、4工程：15.93 m²）

検出遺構 計1条、4基（溝1条、下水枡（煉瓦組）3基、建物基礎（コンクリート製）1基）

出土遺物 点数2,102点、重量194.102 kg（磁器787点、陶器576点、炆器24点、土器16点、瓦13点、木製品38点、煉瓦610点、ガラス製品8点、ガイシ30点）

調査所見 試掘坑②では、TP=約1.0～1.4 m地点で近代の層が広がっており、建物基礎（コンクリート製）1基と下水枡（煉瓦組）3基が確認された。出土遺物は近代のものが主体となるが、その大半は明治時代に比定されるもので、飯能焼の土鍋や西洋磁器などが出土していた。また、TP=約0.5 mの地点で黒色土の中から近世に比定される溝（溝1）が確認された。以下では、当調査坑から確認された遺構と出土遺物に関して順に述べていきたい。

（1）「溝1」（C7-6・C7-9グリッド）

本遺構は、C7-6グリッドとC7-9グリッドの双方にまたがって位置する。TP=0.52 mで、基本土層（第2層）の直下とみられる。また、「建物基礎（コンクリート製）1」と隣接している。確認できた範囲は、長さ約2.4m、幅約1.15mで、東西方向に延びていた。

溝の壁である石垣石は1段のみ検出されたが、遺存状況は悪く、北側では石垣石が一部壊されていた。石垣石の規模は、ツラは24～26 cm、控えは34～60 cmで、石尻はいずれも粗い。また石材はすべて安山岩であった。本遺構は排水施設と推測され、遺物は19世紀中葉～幕末に比定される4点が出土している。器種は、瀬戸・美濃系の蛸唐草文磁器碗や土師質土器碗の細片等であり、近世の遺構と思われる。

（2）「下水枡（煉瓦組）」

①「下水枡（煉瓦組）1」（C7-6グリッド）

本遺構は、C7-6グリッドの西部、TP=約1.3 mに位置する。基本土層（第2層）を掘り進めていた段階で確認されたものである。外形は一辺約1.20 mの正方形を呈し、遺存していた高さは45 cmで、煉瓦は下部5段のみが遺存していた。煉瓦の上面は他の煉瓦同様、煉瓦同士を接着しているモルタルが厚く堆積している箇所が見られることから、本来、何段の煉瓦が積まれていたかは不明である。また、この枡の3面の壁体には常滑産の下水管が接続されており、北西方向に延びる下水管は、後述する建物基礎（コンクリート製）1と接続していた。

なお、隣接する「下水枡（煉瓦組）2」と本遺構は土管の連結した痕跡がなく、新旧の判断はできなかった。また、本遺構の上部や周辺には関東大震災によって崩壊された煉瓦組の建物のガラや焼土が散見されていたことから、構築時期は、関東大震災以前であったと考えられる。枡内から遺物は出土していない。

②「下水枡（煉瓦組）2」（C7-6グリッド）

本遺構は、C7-6グリッドの西部、下水枡（煉瓦組）1に隣接した約TP=1.30 mに位置し、基本土層（第2層）まで掘り進めていた段階で確認された。煉瓦積みは下部3段のみが遺存しており、平面形は一辺が0.6 mの正方形を呈している。また、遺存部の高さは約30 cmで、隣接する下水枡（煉瓦組）1より小規模の枡である。煉瓦の上面は他の煉瓦同様、煉瓦同士を接着しているモルタルが厚く堆積している箇所が見られた。本遺構の上部や周辺には関東大震災によって崩壊された煉瓦建物のガラや焼土が散見されていたことから、構築時期は、近代でも関東大震災以前であったと考えられる。

③「下水枡（煉瓦組） 3」（C7-6グリッド）

本遺構は、C7-6グリッドの中央部、TP=1.48 m に位置し、基本土層（第2層）まで掘り進めた段階で確認された。枡は煉瓦組で、この煉瓦基礎の下面には礫が組まれていたのが確認された。また、このモルタルの上部には関東大震災によって崩壊した建物（煉瓦組）のガラや焼土は確認されていない。よって、下水枡（煉瓦組） 1・2 とは異なり、関東大震災後に構築されていたと推測される。

（3）「建物基礎（コンクリート製） 1」（C7-6・C7-9グリッド）

本遺構は、C7-6・C7-9グリッドにまたがって位置し、東西方向に延びていた。遺構が確認された地点はTP=0.52 m であり、遺構の範囲は長さ約2.8 m であった。また、径12～16 cmの17本の木杭が近世の生活面である基本土層（第2層）直下まで密着するように打ち込まれていた。これらの木杭は軟弱な地盤を強固にするために使用されたものと推測され、杭を打ち込んだ後、コンクリートを流し込んで建物基礎を構成する工法となっていた。

なお、このような建物（コンクリート製）の基礎工法は明治時代以降行われており、千代田区霞が関に所在した海軍省の庁舎や大正3年（1914）に完成した東京駅丸の内駅舎、昭和5年（1920）に起工された旧丸ビル等が事例として挙げられる。また、本遺構は令和5年のB9-2・B8-8グリッドの試掘調査で検出された建物基礎（コンクリート製）1と同様な構造となっており、位置関係からみて明治16年（1883）に開校された生徒館の建物基礎部分とみられる。

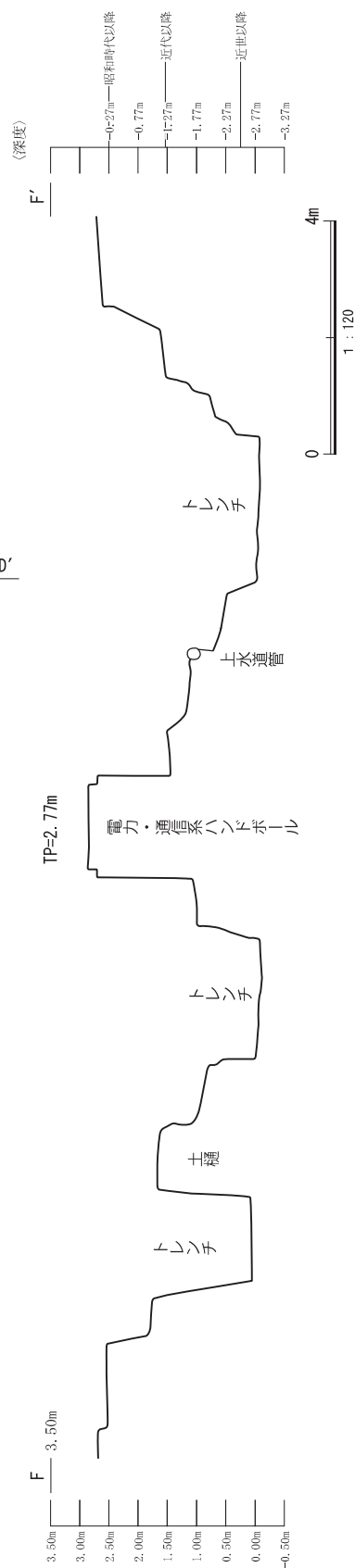
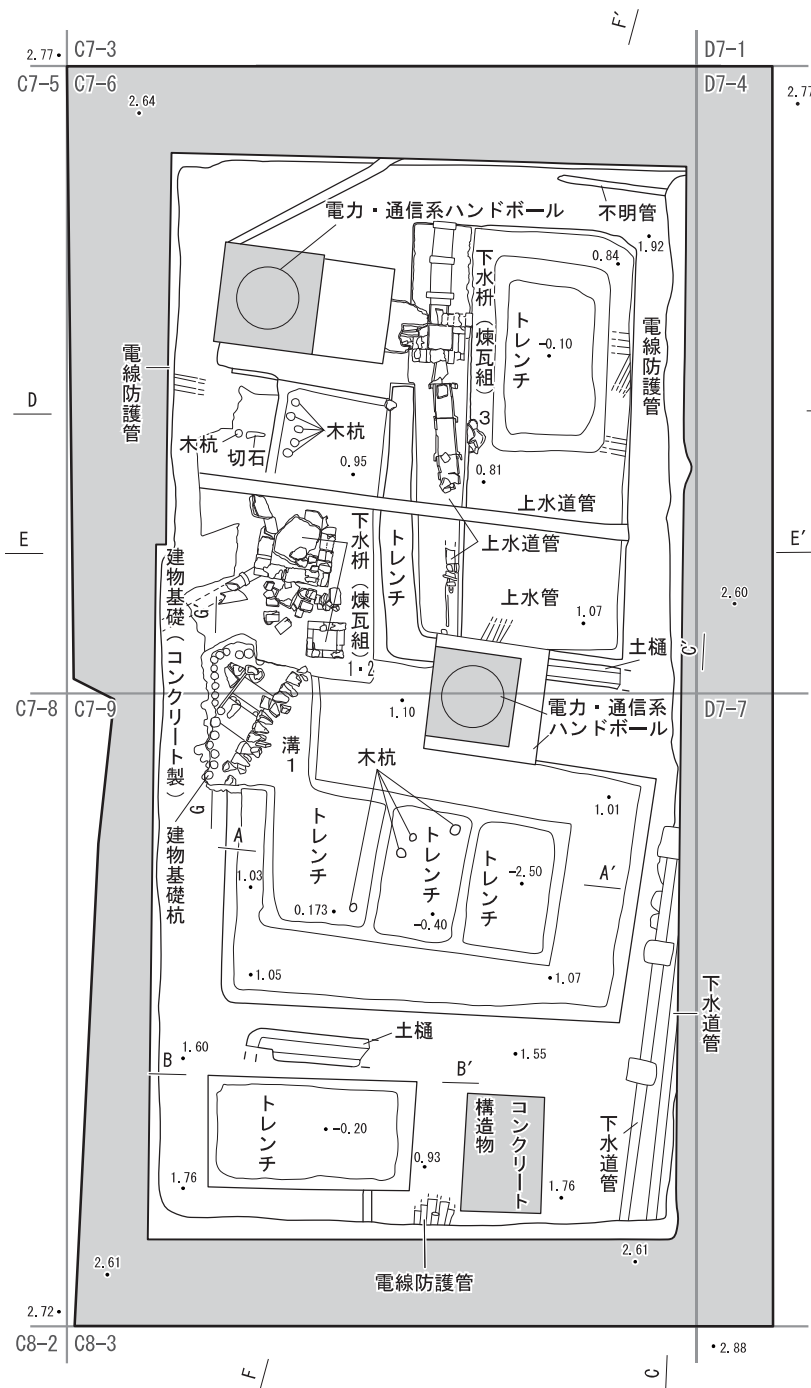
当調査坑で出土した遺物は18世紀後葉～19世紀幕末に比定される遺物が目立つが、瀬戸・美濃産の馬の目皿や瀬戸・美濃系の磁器端反碗、徳利を転用したお歯黒壺等も出土していた。遺物年代の下限は関東大震災頃と考えられる。

当調査坑の中層から出土した遺物は、19世紀中葉～幕末に比定されるものが主体であり、近代に比定される遺物も多く見られるが、特に近代前半の遺物が多い。また、くらわんか製品は少なく、瀬戸・美濃系の磁器端反碗、肥前系の磁器筒丸碗、瀬戸・美濃産の馬の目皿、鍋島焼の中皿、ペコカン徳利、信楽の灯明皿、19世紀中葉に比定される酒徳利、瀬戸・美濃系の火鉢、上質な造りの青土瓶などが出土した。

下層から出土した遺物は、19世紀前半～幕末に比定される遺物が主体となる。また、上質な磁器染付大碗や大鉢、瀬戸・美濃系の小皿が目立つが、蓋物も多く出土していた。磁器はほかにも瀬戸・美濃系の端反碗・筒丸碗、瀬戸・美濃系の片口・髪油壺、中国徳化窯の端反碗、猪口、広東碗が出土している。陶器ではぺこかん徳利、飯能焼の小甕、朝顔鉢、手水鉢、薩摩焼の土瓶や油徳利、行平や常滑産の大甕片が出土していた。陶器鉢は、瀬戸・美濃産の練鉢・捏鉢・搦鉢・片口鉢等、多岐にわたる。

ほかに青磁の香炉、松平越中家の家紋である「星梅鉢紋」の軒棧瓦等が出土した。

TP=2.77m

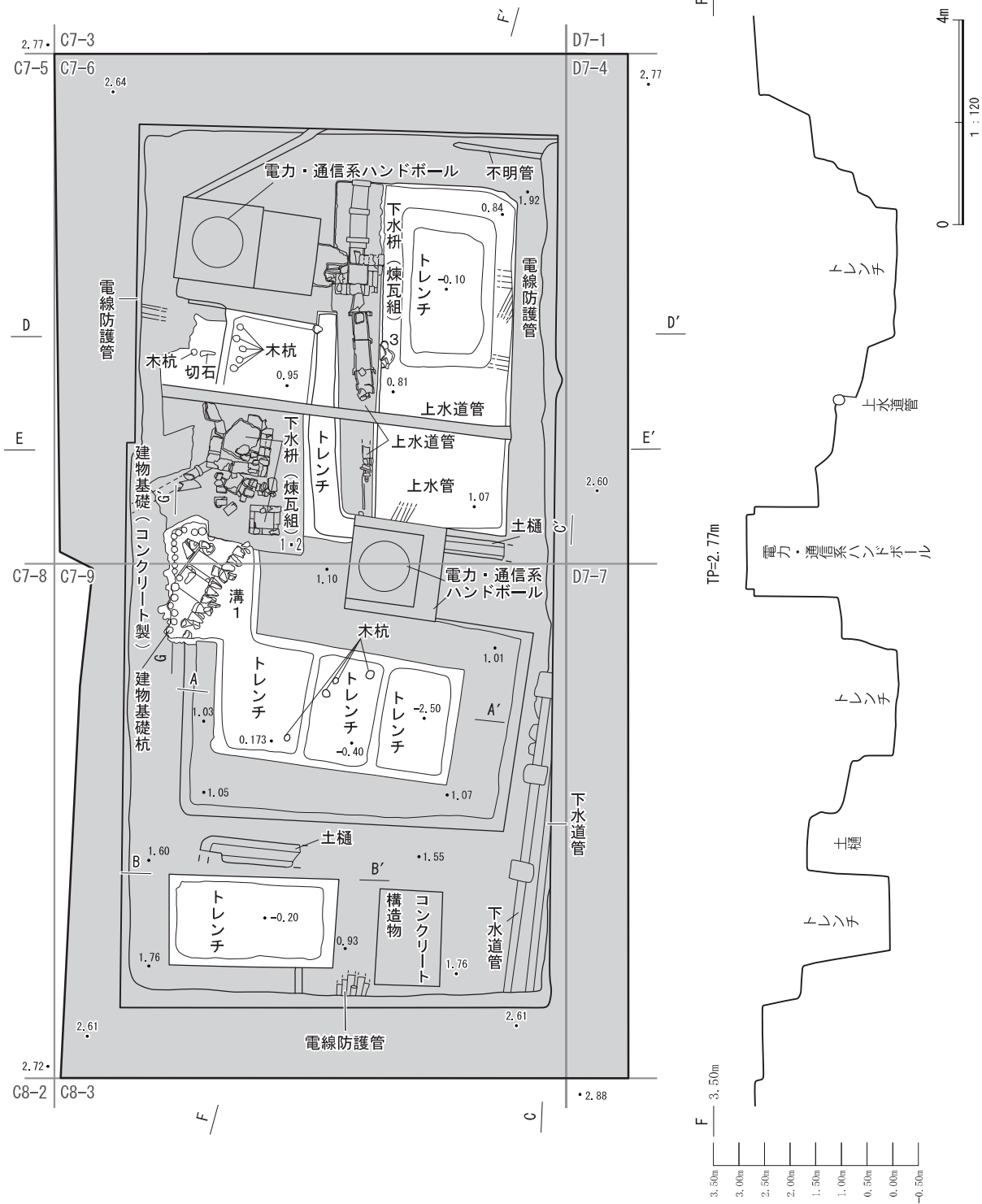


13 図 試掘坑②全体図 (1) 上層

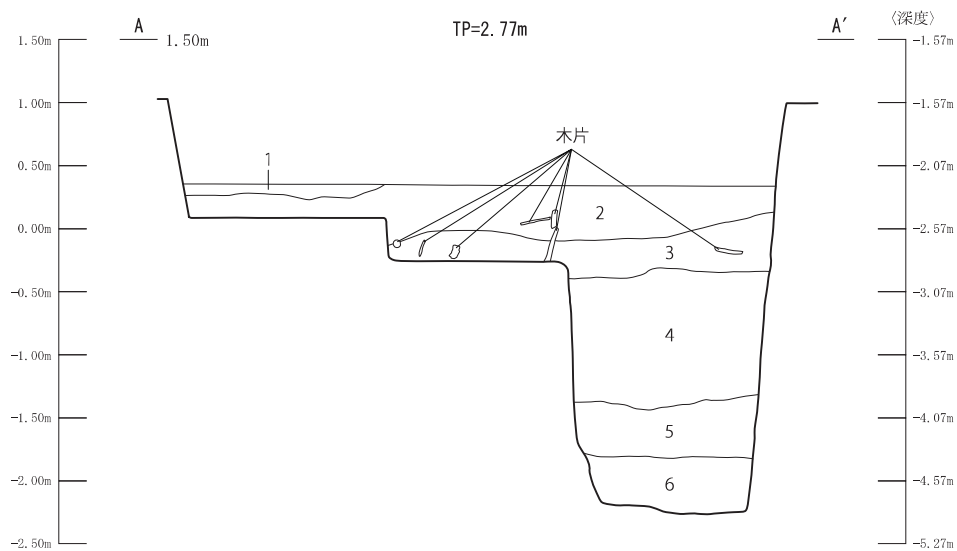
TP=1.50m



14 図 試掘坑②全体図 (2) 中層



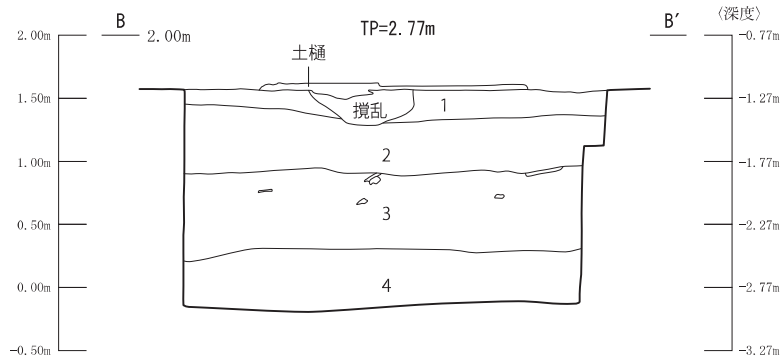
15 図 試掘坑②全体図 (3) 下層



試掘坑② 土層解説

A-A'

1. 灰オリーブ色(5Y5/3) 粘性なし、締り弱い。φ10~50mmの礫・炭化物を少量含む。
2. 灰オリーブ色(5Y5/3) 粘性ややあり、締りやや弱い。φ5~15cmの礫を中量含む。
3. 暗オリーブ色(5Y4/3) 粘性なし、締り弱い。砂質土混じり。φ1~5cmの礫を中量含む。
4. オリーブ黒色(5Y3/2) 粘性なし、締り弱い。シルト多量。
5. オリーブ黒色(5Y3/2) 粘性なし、締り弱い。シルト主体。貝片少量含む。
6. オリーブ灰色(5GY5/1) 粘性・締りともにあり。粘土層。

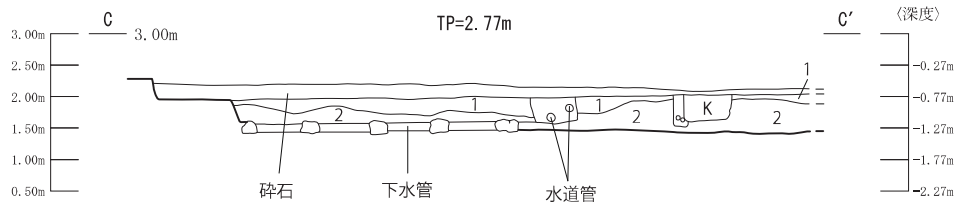


試掘坑② 土層解説

B-B'

1. 灰オリーブ色(5Y5/3) 粘性ややあり、締り弱い。φ5~20cmの礫を中量含む。
2. 暗オリーブ色(5Y4/3) 粘性なし、締り弱い。砂質土混じり。φ1~3cmの礫を中量含む。
3. オリーブ黒色(5Y3/2) 粘性なし、締り弱い。シルト多量。
4. オリーブ黒色(5Y3/2) 粘性なし、締り弱い。シルト主体。貝片少量含む。

0 1m
1 : 60



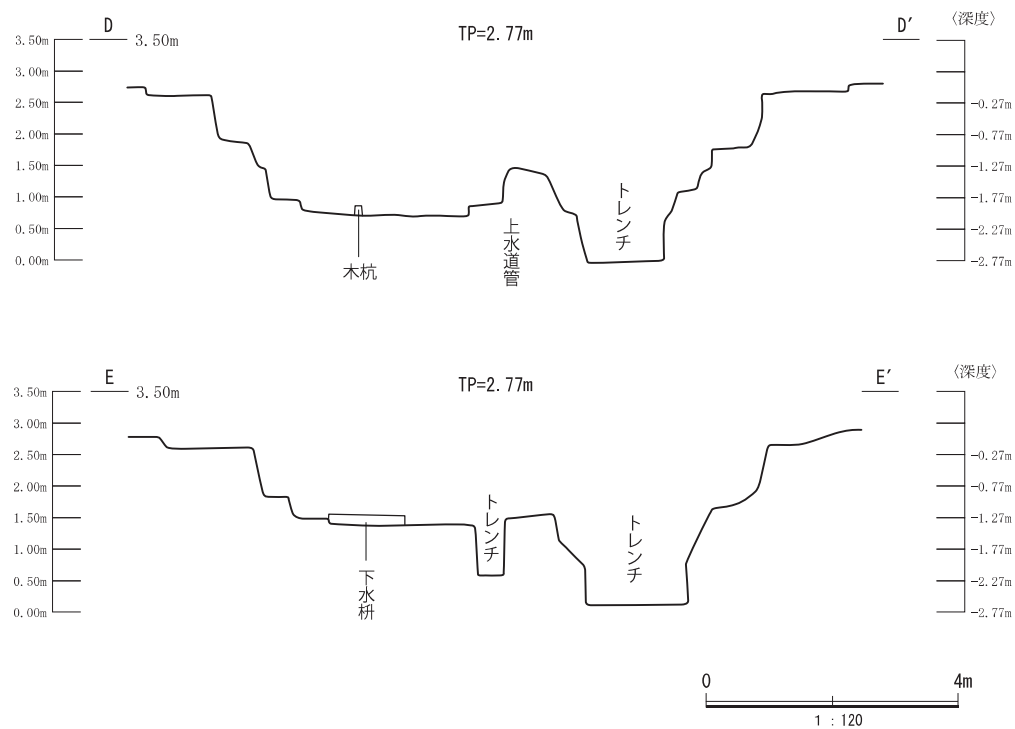
試掘坑② 土層解説

C-C'

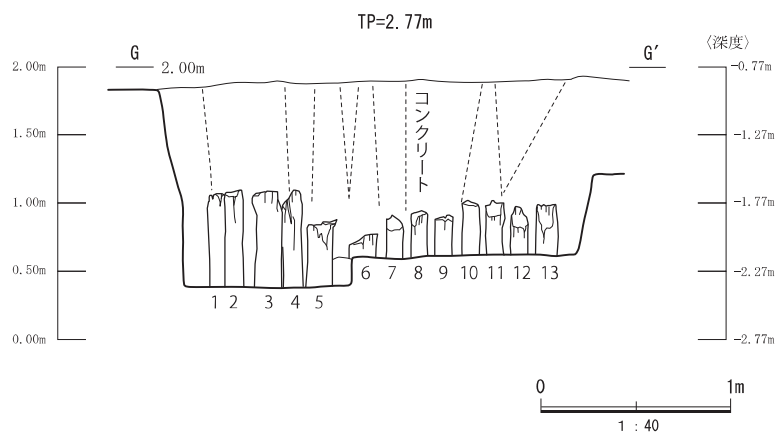
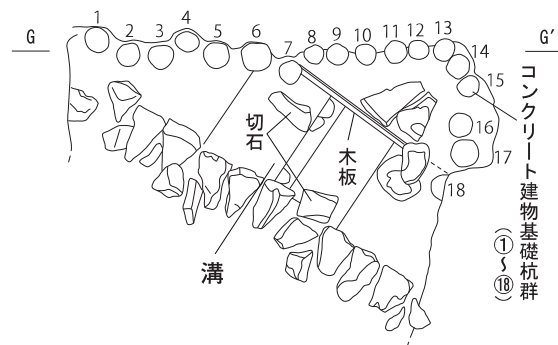
1. 暗 褐 色(10Y3/4) 粘性なし、締り弱い。砂質土混じり。φ30~100mmの礫を多量含む。
2. オリーブ黒色(7.5Y2/2) 粘性なし、締り弱い。砂質土混じり。コンクリート塊、φ3~10cmの礫を少量含む。

0 4m
1 : 120

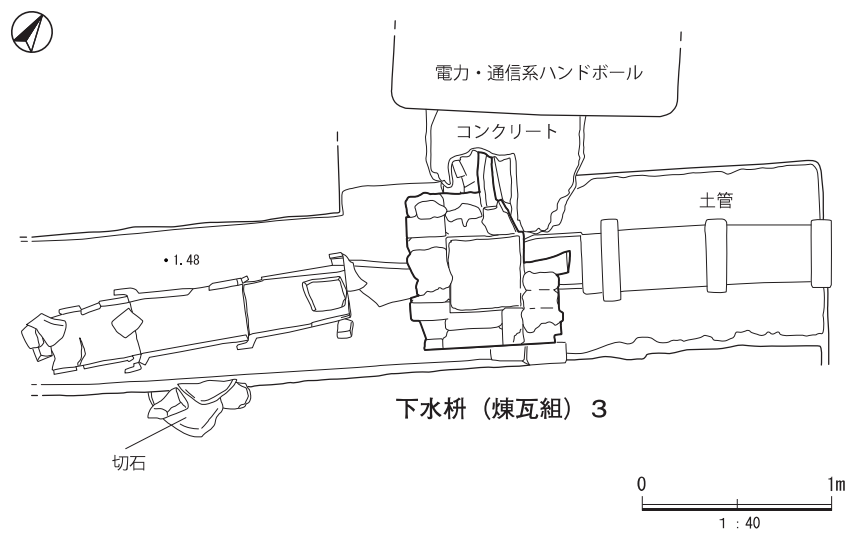
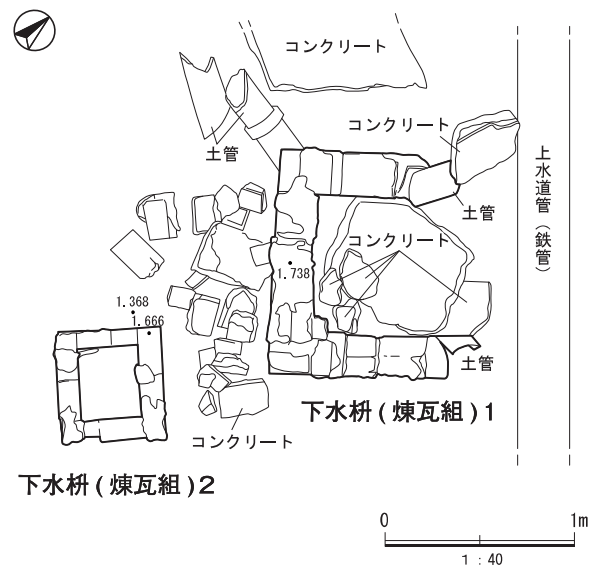
16 図 試掘坑②土層図



建物基礎（コンクリート製）



17 図 試掘坑②平面図・断面図



18 図 試掘坑②平面図

試掘坑③

調査面積 297.26 m² (1工程:297.26 m²、2工程:208.85 m²、3工程:104.76 m²、4工程:54.376 m²)

検出遺構 計4基(建物址(煉瓦組)1～4)

出土遺物 点数745点、重量87.177 kg(磁器176点、陶器120点、炆器2点、土器4点、瓦1点、木製品18点、煉瓦412点、ガラス製品1点、ガイシ11点)

調査所見 当調査坑は大半を現代の攪乱によって壊されており、TP=約1.7 m以上では遺構は確認されていない。また、D7-6グリッドの大半もフーチンによって近世の生活面であるTP=約0.2 mまで壊されていた。よって、近世の生活面の遺存部分はE7-4・E7-5グリッド内の半分程度の面積であり、近世に比定される遺構は確認されなかった。

なお、近代の遺構は建物址(煉瓦組)1～4が確認されたが、本遺構は、明治時代には海軍省の築地病院が位置していた地点である。出土遺物の中には病院で消毒等に使用するホーロー製の洗面器や薬瓶、アンプル等が多数出土していることも併せて考えると、本遺構が築地病院の建物基礎であった可能性が高い。

確認された遺構と出土遺物に関しては、以下で順に述べていきたい。

(1)「建物址(煉瓦組)1」(E7-5グリッド)

本遺構は、E7-5グリッドの中央部、TP=1.77 m地点で確認されたもので、平面形はT字型を呈し、外形は、長軸約3.06 m、短軸約2.10 mである。基本土層である第3層を掘り込み、円礫を多量に含む粗いコンクリートの基礎の上に煉瓦を重ねた造りとなっていた。確認できた部分は下部2段のみであったが、最上段の煉瓦の上面にモルタルが堆積している箇所が見られるため、本来は3段以上あったものと判断される。

なお、調査を進めるにあたり、近代の遺構や土層の確認のため、本遺構は実測と撮影を行った上で取り除いている。

(2)「建物址(煉瓦組)2」(E7-5グリッド)

本遺構は、E7-5グリッドの北西部、TP=1.79 m地点で確認されたもので、平面形は長方形を呈し、外形は、長軸2.20 m、短軸0.34 mである。基本土層である第3層を掘り込み、円礫を多量に含む粗いコンクリートの基礎の上に煉瓦を重ねた造りとなっていたが、下部2段のみが遺存していた。しかし、最上段の煉瓦の上面にはモルタルが厚く堆積していることから、ほかの建物址(煉瓦組)同様、本来は3段以上あったものと判断される。

(3)「建物址(煉瓦組)3」(E7-4グリッド)

本遺構は、E7-4グリッドの南東部、TP=1.68 m地点で確認されたもので、平面形は長方形を呈し、外形は、長軸2.97 m、短軸0.49 mである。基本土層である第3層を掘り込み、円礫を多量に含む厚さ0.20 mの粗いコンクリート板の基礎の上に煉瓦を重ねた造りとなっていた。また、下部4段のみ遺存していたが、コンクリート板の下面は、厚さ0.40 m内に円礫が充填されており、これらは割栗石として使用されていたと考えられる。これは、当調査坑を含む築地全域が軟弱な地盤であるため、地盤の補強目的で使用したものと推測される。最上段の煉瓦の上面には煉瓦同士を接着しているモルタルが厚く堆積している箇所が認められており、本来は6段以上あったものと判断される。

(4)「建物址(煉瓦組)4」(E7-4グリッド)

本遺構は、E7-4グリッドの中央部やや南東寄り、TP=1.44 m地点で確認されたもので、平面形は長方形を呈し、外形は、長軸2.26 m、短軸0.53 mである。基本土層(第3層)を掘り込み、円礫を多量に含む粗いコンクリートの基礎の上に煉瓦を重ねた造りとなっていたが、下部2段のみが遺存していた。最上段の煉瓦の上面には煉瓦同士を接着しているモルタルが厚く堆積している箇所が認められており、本来は3段以上あったものと判断される。

当調査坑は、明治時代～関東大震災までに比定される製品が主流となるが、18世紀前葉～幕末に比定される製品も出土している。特に目立った遺物としては、瀬戸・美濃系の磁器端反碗、被熱した陶磁器片、清朝期の皿、希釈瓶、薬瓶、肥前系の磁器筒丸碗、井ぶり鉢などである。

2. 当遺跡出土の墨書土器・刻書土器（釘書土器）について

（1）墨書土器について

当遺跡出土の墨書土器は近世後葉～明治時代の層から計11点確認された。いずれも陶磁器類の底部外面に墨書されていたもので、19世紀～近代初頭に比定される。試掘坑①では、池の埋土から出土した陶器中皿1点「三、□」と陶器瓶1点「アキ」が出土している。ほかの9点は試掘坑②から出土したもので、磁器染付皿1点「□」、陶器中皿3点（「きの／局」・「□」・「天保六年／未十月」）、陶器瓶4点（「坂本」・「芝？」・「小」・「□」）、陶器碗1点「□」である。儀式や信仰に関するものではなく、製品の所有者の表示（屋号の一文字表示）や紀年銘として記されたものと考えられる。

（2）刻書土器（釘書土器）について

当遺跡からは、釘書された磁器18点が出土しているが、これらはすべて試掘坑②から出土したもので、しかも「コマ」あるいは「コマ」を含む釘書は16点に上る。また、18点の中で13点が同規格の山水文の染付碗や皿である。当調査坑は明治時代に海軍省の「生徒館」が所在していた場所であることや、これら釘書の磁器製品以外にも多数の井ぶり碗や皿が関東大震災後の廃材や煉瓦片とともに出土していることからみて、これらの遺物は海軍省の施設で使用されたものと推測される。

参考・引用文献

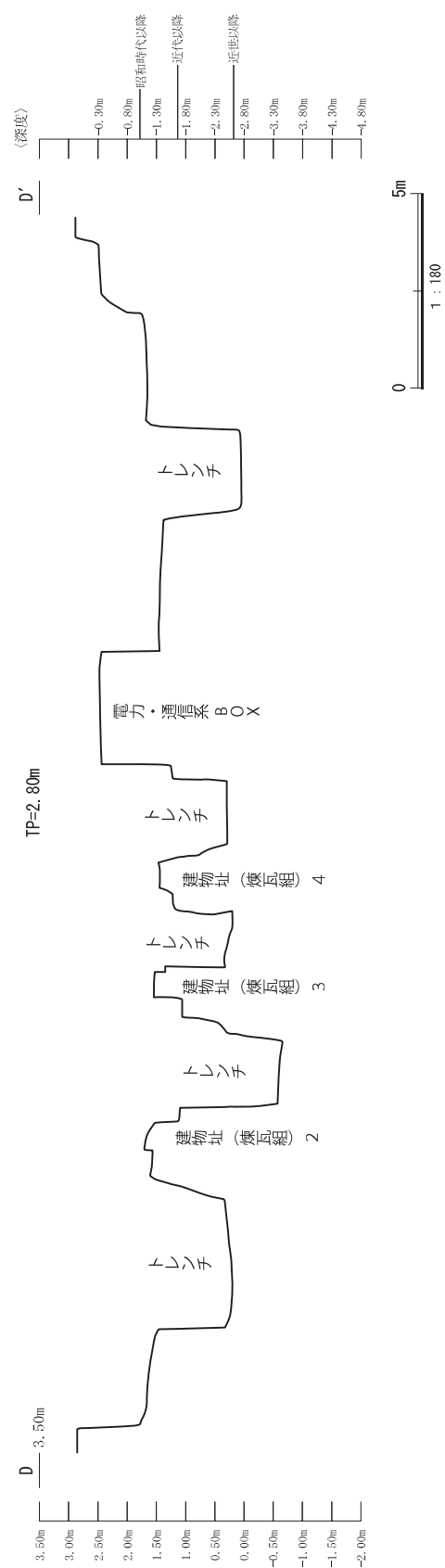
- ・海軍兵学校 1919 『海軍兵学校沿革』第1巻（国立国会図書館デジタルコレクション）
- ・貝塚爽平 1979 『東京の自然史〈増補第2版〉』紀伊國屋書店
- ・渋谷葉了 2014 「木挽町築地の土地利用―武家地から海軍用地へ―」『築地五丁目遺跡―東京国税局（仮称）整備等事業に伴う埋蔵文化財発掘調査』東京都埋蔵文化財センター調査報告第291集
- ・水路部 1935 『水路部沿革史―自明治19年至大正15年（昭和元年）―』（国立国会図書館デジタルコレクション）
- ・角田清美 2014 「東京都心・「日比谷の入江」の埋没地形と有楽町層」『駒沢地理』第50号
- ・東京都埋蔵文化財センター 2014 『築地五丁目遺跡―東京国税局（仮称）整備等事業に伴う埋蔵文化財発掘調査』東京都埋蔵文化財センター調査報告第291集
- ・東京都埋蔵文化財センター 2014 『築地五丁目遺跡―東京国税局（仮称）整備等事業に伴う埋蔵文化財発掘調査その2―』東京都埋蔵文化財センター調査報告第299集
- ・東京都埋蔵文化財センター 2021 『築地市場跡遺跡―東京都市計画道路環状2号線（築地）整備等事業に伴う埋蔵文化財発掘調査』東京都埋蔵文化財センター調査報告第362集
- ・仲光克顕 2022 「初期江戸、城下町の埋立地形」『月刊考古学ジャーナル』No.772



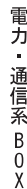
TP=2.80m



26

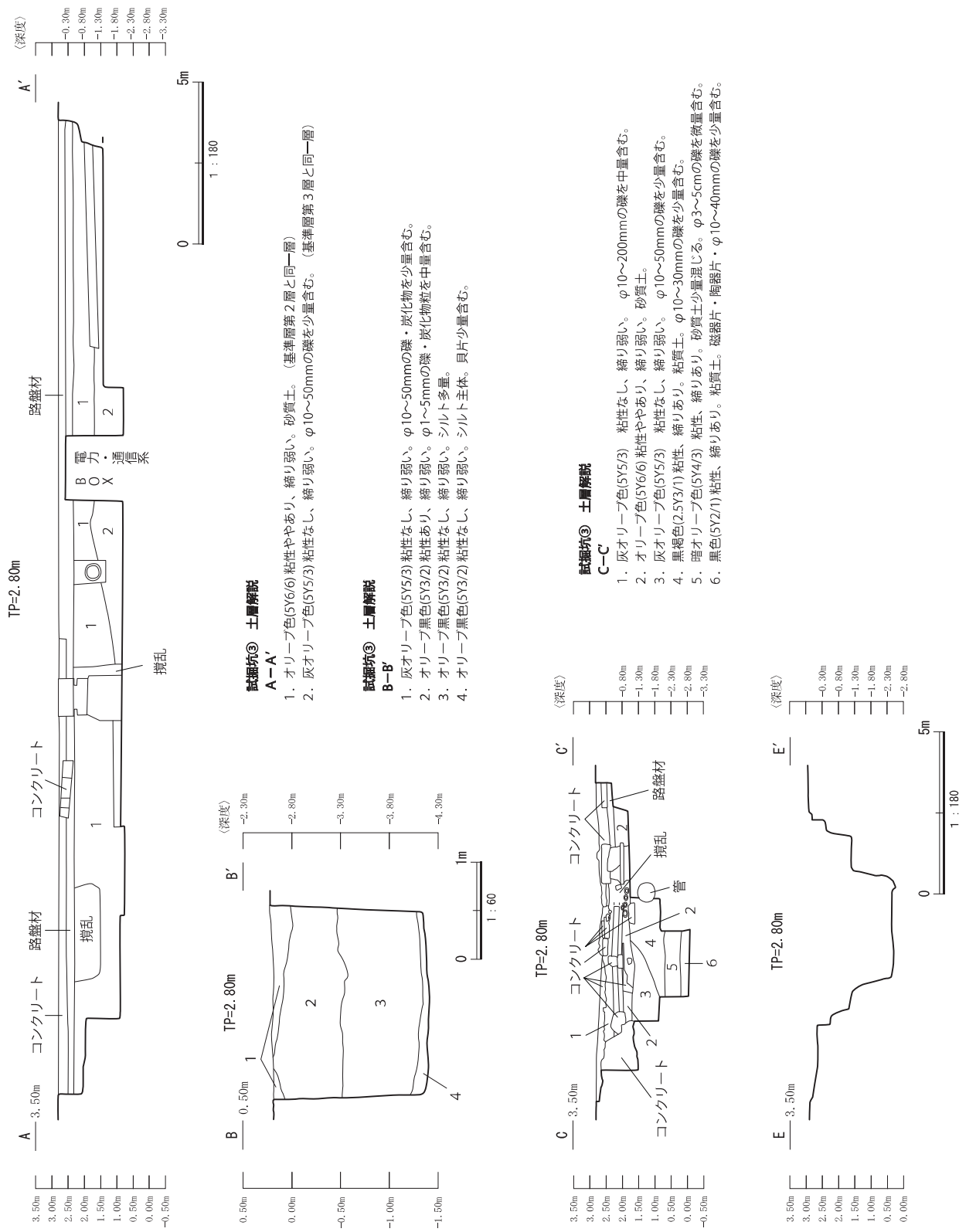


27

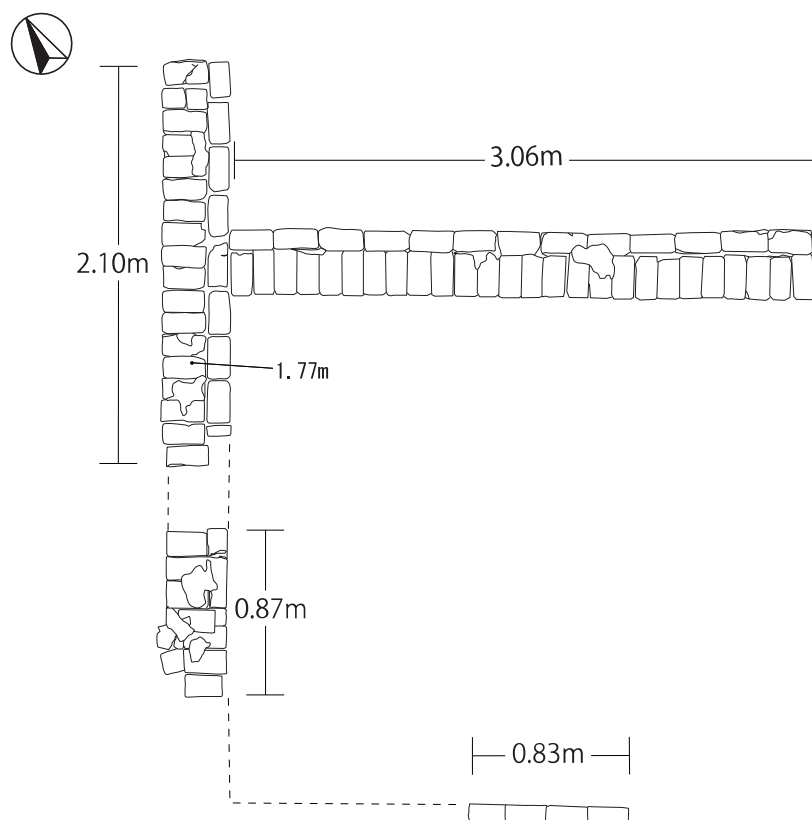


21 図 試掘坑③全体図 (3) 下層

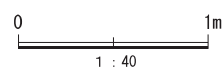
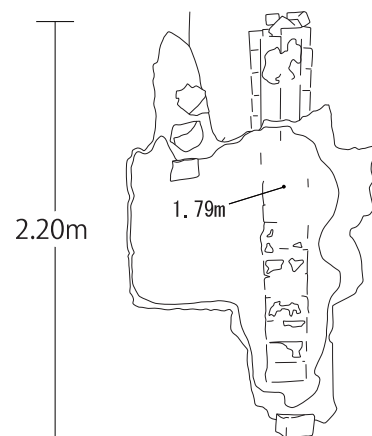
22 図 試掘坑③土層図



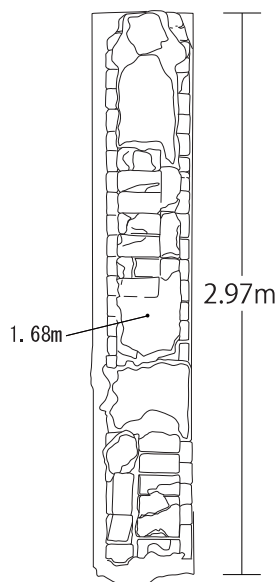
建物址（煉瓦組） 1



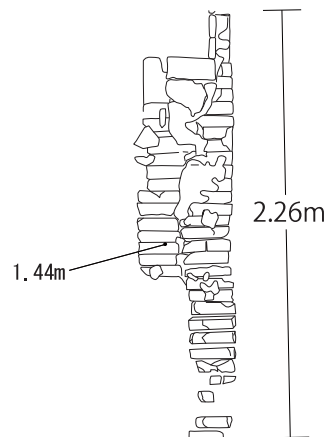
建物址（煉瓦組） 2



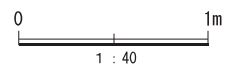
23 図 試掘坑③建物址（煉瓦組） 1・2 平面図



建物址（煉瓦組）3



建物址（煉瓦組）4



24 図 試掘坑③建物址（煉瓦組）3・4平面図

表 1 試掘坑①出土遺物集計表

		磁器	青磁	陶器	炆器	土器	瓦	土製品	金属製品	木製品	ガラス	自然遺物	レンガ	タイル	ガイン	備考	合計
		点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量
試掘坑①	上層 C11-4	96 2,327	9 138	51 2,882	1 51		9 1,644				32 4,014		122		21 1,178		341 12,234
	上層 C11-5	89 2,177	8 306	20 701	2 103						16 1,068		52		14 582		201 4,937
	上層 C11-6	100 2,523	7 531	29 1,951	1 92	1 25	2 324				16 629		48		6 197		210 6,272
	上層 D11-4	96 10,014	12 1,180	46 3,249	2 95		8 1,428	2 27	2 643		43 2,894		32		37 2,253		280 21,783
	中層 C11-6	4 486											44				48 486
	下層 石槽前(池の中)	16 207		5 307						4 -	1 61		188				214 575
	石垣 C11-4 (Aトレ)	2 5		2 39									12				16 44
	石垣 C11-6 (Bトレ)	1 6											2				3 6
	石垣 C11-4 (Cトレ)			2 50													2 50
	攪乱 C11-5	13 465		4 133							15 318		302				334 916
																	0 0
																	0 0
																	0 0
																	0 0
																	0 0
																	0 0
																	0 0
																	0 0
	合計	417 18,210	36 2,155	159 9,312	6 341	1 25	19 3,396	2 27	2 643	4 -	123 8,984	0 0	802 160,400	0 0	78 4,210		1,649 207,703

表2 試掘坑②出土遺物集計表

		磁器	青磁	陶器	炻器	土器	瓦	土製品	金属製品	木製品	ガラス	自然遺物	レンガ	タイル	ガイン	備考	合計
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
試掘坑②	上層	C 7 - 6	25	2	12								66		6		111
			230	11	808										111		1,160
	上層	C 7 - 9	15		12			1					67		6		104
			207		362			200							160		1,039
	上層	D 7 - 4	228	4	43	1	2						89		13		384
			1,826	62	446	87	45								244		2,791
	上層	D 7 - 7	20	1	15								118		5		160
			257	5	248										470		1,006
	中層	C 7 - 6	21		12								68				101
			313		558												871
	中層	C 7 - 9	18		17			1					22				58
			316		1,299			755									2,370
	中層	D 7 - 4	22		14			1					79				116
			213		615			132									960
	中層	D 7 - 7	17		19								12				48
			456		1,005												1,461
	中層	D 7 - 9	32		19	2	1						89				143
			393		394	278		139									1,204
	下層	C 7 - 6	179	5	94	9				6							293
			2,938	58	10,894	1,554				-							15,444
	下層	C 7 - 9	62		122	2	6	4		8							204
			3,111		16,839	354	785	537		-							21,626
	下層	D 7 - 4	98	4	83	3	4	1		15							208
			2,515	65	8,431	514	83	80		-							11,688
	下層	D 7 - 7	28	2	85	3	4			9							131
			1,787	19	7,337	284	178			-							9,605
	攪乱	-	4		29	4		4									41
			38		348	102		389									877
																	0
																	0
	合計		769	18	576	24	16	13	0	0	38	8	0	610	0	30	2,102
			14,600	220	49,584	3,173	1,091	2,232	0	-	217	0	122,000	0	985		194,102

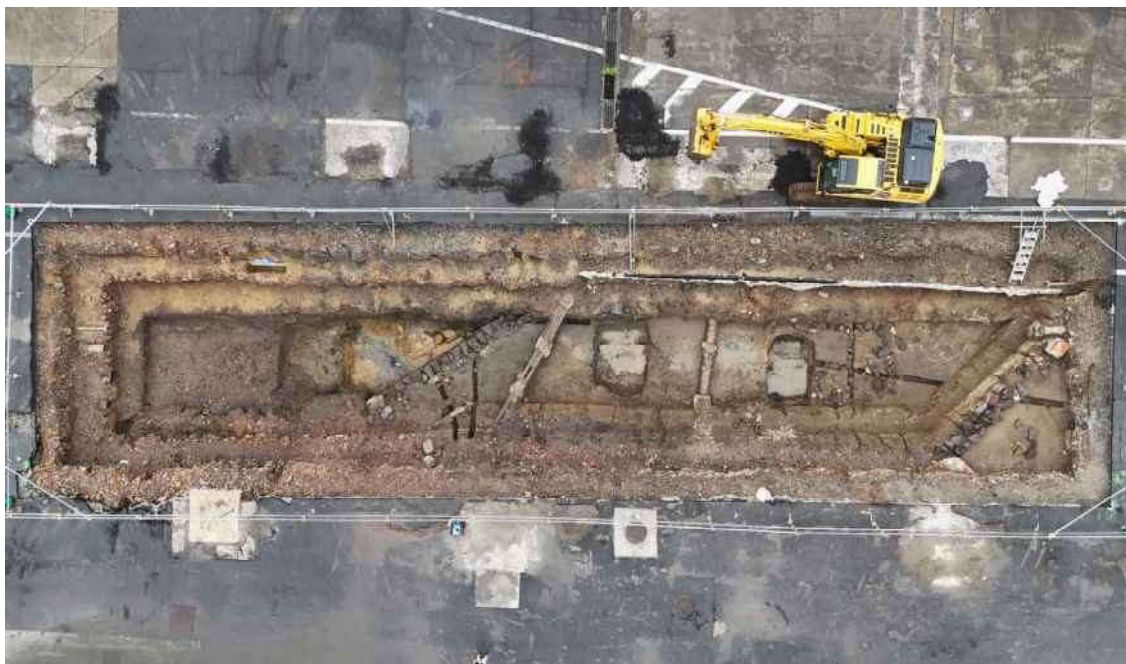
表3 試掘坑③出土遺物集計表

		磁器	青磁	陶器	炻器	土器	瓦	土製品	金属製品	木製品	ガラス	自然遺物	レンガ	タイル	ガイン	備考	合計
		点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量	点数 重量
試掘坑③	上層	D 7 - 6	9 1	7 45									124				141 154
	上層	E 7 - 4	27 642	3 76	7 125								66		3		106 975
	上層	E 7 - 5	65 662		29 429	1 59	1 105				1 33		86		7		190 1,443
	中層	E 7 - 4	17 429		2 74								98		1		118 535
	中層	E 7 - 5	36 227	2 30	15 227	1 39	2 10						28				84 533
	下層	E 7 - 4 (Aトレ)	2 18		15 147					8 -			2				27 165
	下層	E 7 - 4 (Bトレ)	4 14		41 549	2 32				8 -			8				63 595
	下層	E 7 - 5 (Bトレ)	10 124		4 253					2 -							16 377
																	0
																	0
																	0
																	0
																	0
																	0
																	0
																	0
																	0
																	0
	合計		170 2,213	6 118	120 1,849	2 98	4 42	1 105	0 0	18 -	1 33	0 0	412 82,400	0 0	11 319	0 0	745 87,177

出土総点数	1,356	60	855	32	21	33	2	2	60	132	0	1,824	0	119			4,496
出土総重量(g)	35,023	2,493	60,745	3,612	1,158	5,733	27	643	-	9,234	0	264,800	0	5,514	0		488,982

試掘坑①

PL 1



試掘坑①遺構検出状況(直上より)(画面下が北北東)



石積 2 検出状況(南より)



調査区(池1)土層断面(北北東より)



下水枡(煉瓦組)検出状況(北北東より)



集石遺構1検出状況(南より)



石積 1 土層断面(南南西より)



調査区土層断面(東より)



石積 2 桐木検出状況(南南東より)



石積 1 検出状況(東より)



試掘坑②遺構検出状況(直上より)(画面下が南南東)



建物基礎 1 (コンクリート製)・溝1検出状況(東より)



調査区土層1(西より)



下水枡(煉瓦組) 3 検出状況(直上より)



下水枡(煉瓦組)1・2検出状況(直上より)



土樋検出状況(南南東より)



木杭検出状況(北北西より)



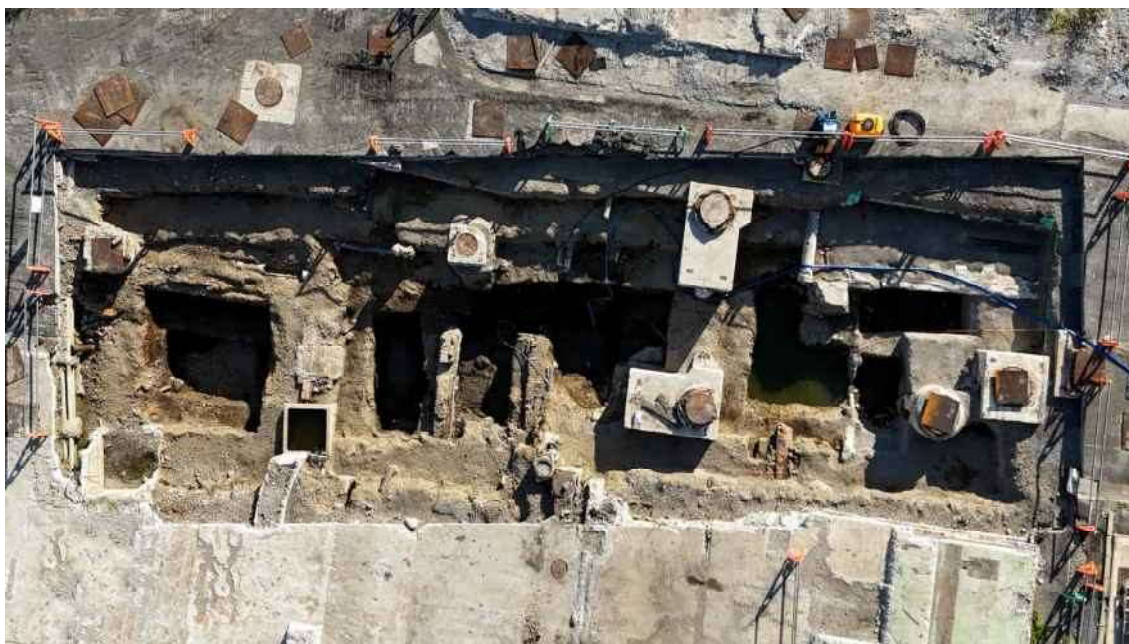
下水枡(煉瓦組) 3 検出状況(南南東より)



近世土層断面 1 (西より)



近世土層断面 2 (西より)



試掘坑③遺構検出状況(直上より)(画面下が北北西)



調査区土層断面1(南より)



調査区土層断面2(南東より)



築地市場時代の攪乱状況(北西より)



E7-5グリッド土層断面(北東より)



建物基礎(煉瓦組) 1~4 検出状況(直上より)(画面下が北北東)



建物基礎(煉瓦組) 4 断面確認状況(北西より)

試掘坑①-1
上層

PL 4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-4



C11-5

試掘坑①-2
上層

PL 5



C11-5



C11-5



C11-5



C11-5



C11-5



C11-5



C11-5



C11-6



C11-6



C11-6



C11-6



C11-6



C11-6



C11-6



C11-6



C11-6



C11-6



C11-6



C11-6



C11-6



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4

試掘坑①-3
上層

PL 6



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



D11-4



C11-5攪乱部



C11-5攪乱部



C11-5攪乱部



C11-5攪乱部



C11-5攪乱部



C11-5攪乱部

中層



C11-6



C11-6



C11-6



C11-6

試掘坑①-4
下層

PL 7



C11-6 土丹内Aトレ



C11-6 土丹内Aトレ



C11-6 土丹内Aトレ



C-11-6Bトレ



C11-5 集石遺構 1Cトレ



C11-5 集石遺構 1Cトレ



池



池



池



池



池



池

試掘坑②-1
上層



C7-6



C7-6



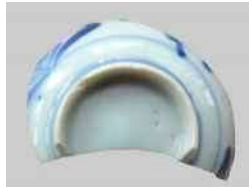
C7-6



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



D7-4



D7-4



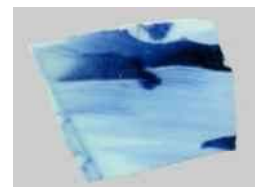
D7-4



D7-4



D7-4



D7-7

試掘坑②-2

上層

PL 8



D7-7



D7-7



D7-7



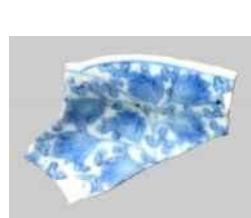
C7-6



C7-6



C7-6



C7-6



C7-6



C7-6



C7-6



C7-6



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7

試掘坑②-3

中層

PL 9



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7



D7-9



D7-9



D7-9



D7-9



D7-9

下層



C7-6



C7-6



C7-6



C7-6



C7-6



C7-6



C7-6



C7-6



C7-6



C7-6



C7-6



C7-6



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9

試掘坑②-4

下層

PL10



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



C7-9



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4

試掘坑②-5

下層

PL11



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-4



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7



D7-7

試掘坑③-1

上層

PL12



D7-7



D7-7



D7-7



溝跡



D7-6



D7-6



E7-4



E7-4



E7-4



E7-4



E7-5



E7-5



E7-5



E7-5



E7-5



E7-5

中層



E7-4



E7-4



E7-4



E7-4



E7-4



E7-5

下層



E7-5



E7-5



E7-5



E7-4トレンチ



E7-4トレンチ



E7-4トレンチ



E7-4トレンチ

試掘坑①-1
上層

PL13



C11-4



C11-4



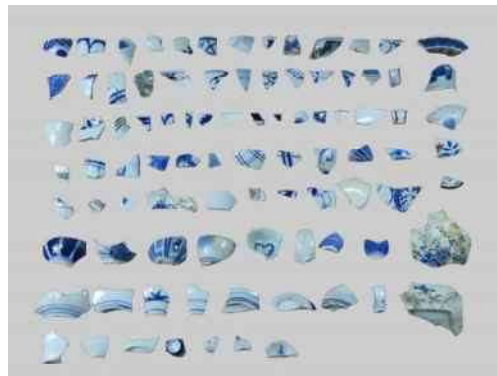
C11-4



C11-4



C11-4



C11-5



C11-5



C11-5

試掘坑①-2
上層

PL14



C11-6



C11-6



C11-6



D11-4



D11-4



D11-4

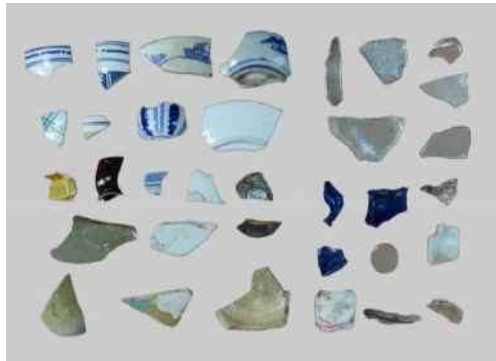


D11-4



D11-4

試掘坑①-3
上層



C11-5攪乱

下層



池



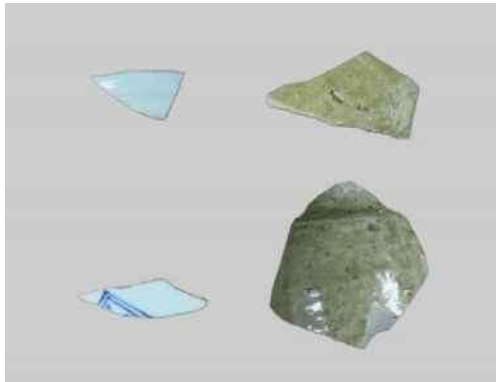
C11-6(Bトレ)

中層

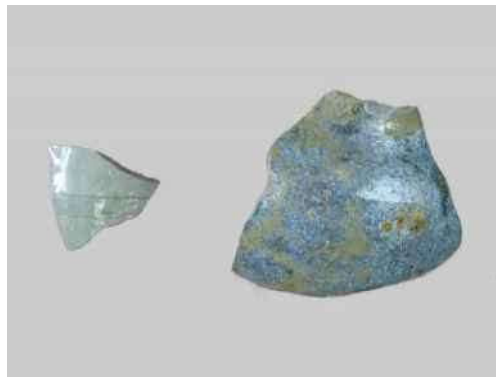
PL15



C11-6



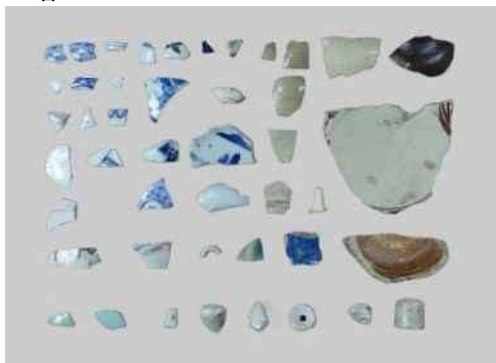
C11-6 土丹(Aトレ)



C11-5 集石遺構 1 (Cトレ)

試掘坑②-1
上層

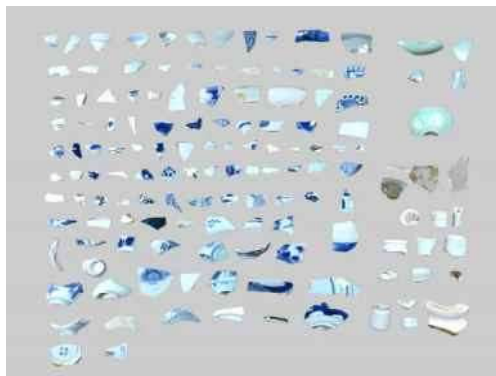
PL16



C7-6



C7-9



D7-4



D7-4



D7-4



D7-7

中層



C7-6



C7-9

試掘坑②-2
中層



D7-4



D7-9

下層



C7-6



C7-6

PL17



D7-7



C7-6



C7-6



C7-9



C7-9



C7-9



D7-4



D7-4



D7-4



D7-7

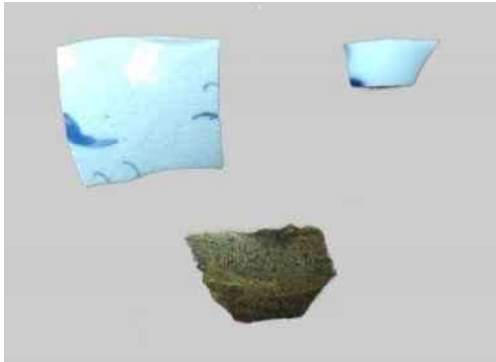


D7-7

試掘坑②-4
下層



D7-7
杭址



試掘坑③-1
上層



D7-6



E7-5(1)

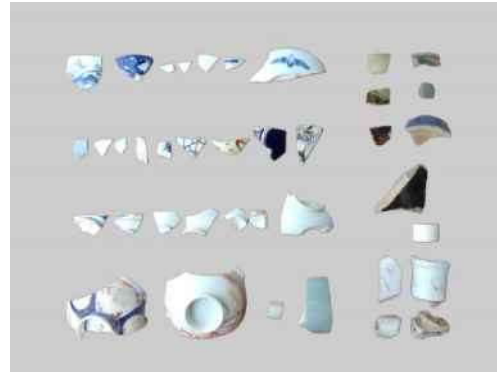
PL19



D7-9
溝



E7-4



E7-5(2)



試掘坑③-2
中層



E7-4
下層

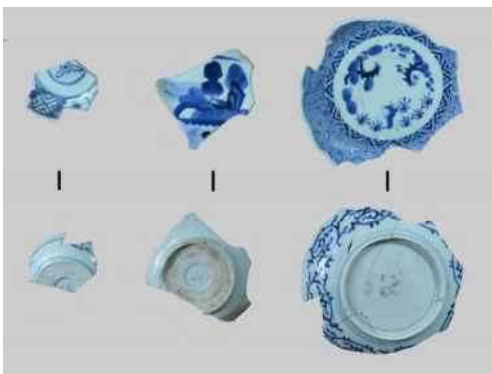


E7-4Aトレンチ



E7-5Bトレンチ

墨書・釘書



試掘坑②C7-6・D7-7(釘書き)

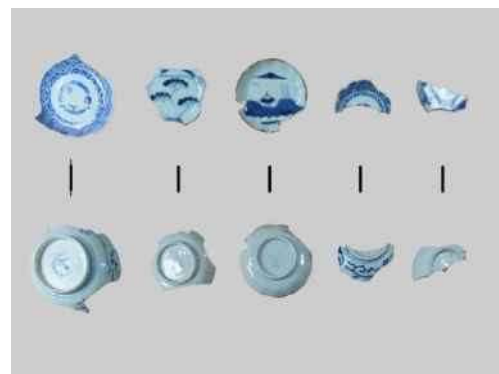
PL20



E7-5

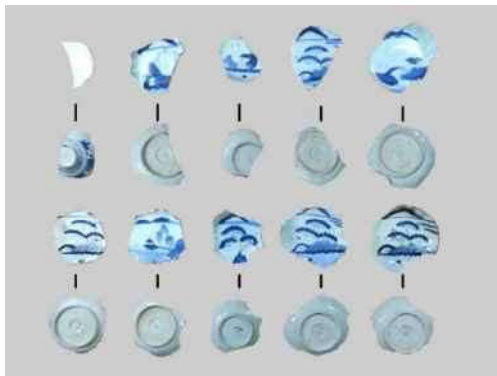


E7-4Bトレンチ



試掘坑②C7-9・D7-4・D7-7(釘書き)

墨書・釘書



試掘坑②D7-7(釘書き)



試掘坑②D7-4 (墨書)



試掘坑②C7-9 (墨書)

煉瓦



建物址 (煉瓦組)

PL21



試掘坑①池 (墨書)

試掘坑①池 (墨書)



試掘坑②C7-6 (墨書)



煉瓦個別(刻印「桜」)

木製品



試掘坑①池（枝木・木片）



試掘坑②下層(曲物・鏡・他)



試掘坑③下層(曲物)

PL22



試掘坑②下層(曲物)



試掘坑②下層(漆製品)